

様式6

「学校」部門

河川基金助成事業

「荒川フィールド学習」 報告書

助成番号：2024 - 7214 - 009

東京都北区立岩淵小学校

校長 荒木 克之

2024 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2024-7214-009	荒川フィールド学習		北区立岩淵小学校			
所在地	東京都北区	対象河川名	荒川			
対象学年	4 学年(39人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	荒川の環境について調べたり、その保全に向けた活動に共同して取り組んだりすることを通して、環境保全に関する具体的な取り組みについて考え、環境を守る活動を続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、荒川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。					
育成したい資質・能力	課題意識と目的をもって調べたり考えをまとめたり、根拠を基に発表したりする児童を育てる。 ・身近な荒川の問題について調べ、自分にとってよりよい環境づくりを考える力 ・体験を通して、新しい課題を見出す力 ・学んだことをまとめ、発信する力 ・進んでコミュニケーションを図り、目的に向かって協力したり、地域の人や身近な人のことを考えながら活動したりする児童の育成					
学習活動の内容と成果						
【内容】 ・荒川を探検し、荒川の自然環境の悪化に気づき、原因を学習用PCで調べる。 ・水辺の会や日本生態系協会の方々とともに荒川の清掃活動を通して、荒川の自然環境を保全する活動を継続している思いや考えを想像する。 ・水辺の会や日本生態系協会の方々がどんな思いや願いをもって荒川の自然環境を保全しているのか考え、インタビューをする。 ・ゴミが放置されている荒川の環境を改善するためにできることを考える。 ・荒川の環境をきれいに保つために、児童が考えた活動をグループごとに行う。 ・荒川を大切に思える人を一人でも増やすための活動を考えたり発信したりする。 【成果】 ・実際に体験をしていくと荒川に遊びに来た人や自然に触れに来た人のゴミが多いことに気が付いた。また、意欲をもって活動に参加していたが、危険な物が落ちていたり、実際のゴミの量を目の当たりにしたりして設備・整備の大変さを痛感した。 ・荒川の自然環境の素晴らしさが未来へと継続するために、荒川が抱える環境問題や今できることなどをポスター掲示や保護者との清掃活動を通して、自分の家族、地域の人々に向けて伝えることができた。						
学びの創意工夫点	・ <u>思考ツールやロイロノートを活用した授業展開</u> 互いの考えを共有したり比較したりするためにウェビングマップやなどの思考ツールを活用した。また、互いの考えを共有することで自分たちが解決すべき課題を整理・分析し、設定できた。 ・ <u>対象学年の学習のつながり</u> 低学年で学んだ荒川に生息する動植物に親しみをもつことを通して、中学年では客観的に荒川を見つめることで環境問題に目を向けられるようにした。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	荒川の自然環境の素晴らしさが未来へと継続するために、荒川が抱える環境問題や取り組む活動を自分事として考え主体的に荒川をきれいにしようとする心が育まれた。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援の概要	水辺の会へのインタビュー、船上体験・荒川水生生物の保護・かじり体験・ゴミ拾い活動・ポスター・看板の掲示					
成果発表	成果作品		発表方法			
	ポスター・看板		ポスターの展示 水辺の会・保護者・児童との清掃活動			
今後の課題・展開						
子供たちの荒川に対する好意的な気持ちを保持しつつ、その環境を未来につなぐために、継続的に清掃活動を行ったり、その活動を広げるために異学年に呼びかけて発信したりすることが必要である。						

助成番号	助成事業名		学校名			
2024-7214-009	荒川フィールド学習		北区立岩淵小学校			
所在地	東京都北区		対象河川名	荒川		
対象学年	5学年(29人)		主たる教科	総合的な学習の時間		
河川教育の目標	ふるさと荒川への理解が深まり、自分と荒川との良好な関係が、さらに強いものとなるとともに安全な生活のために自ら考え行動できるようにする。					
育成したい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 荒川近くの地域の実態や環境問題の現状、さらにそこに関わる人たちの思いや願い、取り組みについて知ることができるようにする。 グループでまとめる活動に重点を置き、友達と協力して問題を解決する力や、協同して学習する態度を育成する。 情報に関連付けたり、整理したり、分析したりすることを通して、荒川が氾濫した時に命を守るためによりよい方法を理解できるようにする。 荒川の近くに住んでいるということを改めて見つめ直し、自分ごととして捉え、氾濫した時に命を守るための適切な行動をすることができるようにする。 					
学習活動の内容と成果						
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知水資料館で収集した情報を整理し、自分や家族の命を守るために自分達に何ができるのか考えた。 知水資料館に行く際は、目的を意識しインタビューをしたり、資料、インターネットを活用したりし、様々な手段によって情報の収集を事前に行ってから学習に取り組んだ。 インターネットや資料などで収集した多様な情報を、思考ツールを用いて整理した。 整理された情報を見つめ直し、お互いに考えや意見を出し合ったり、受け入れたりして、協同しながら見通しや計画を確かめ合った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知水資料館の方から話をしてもらったり、マイタイムラインを作成したり、グループで命を守るための行動をまとめたりすることで荒川が氾濫した際により適切な避難方法等をまとめ、命を守ろうという気持ちを高めることができた。 自分たちが体験したことや追究する活動の中で気付いたり発見したりしたことの中から、荒川の良さを認めつつ、時には、恐ろしい側面もあるという気持ちに気付くことができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <u>他教科との学習のつながり</u> 総合で学習したことを社会科・理科の災害に関する単元とつなげて考えた。荒川の自然・防災等、自分たちがより知りたい情報を調べていく活動を総合で行ったことで、他教科で学習する時は、既習事項を生かし、学習することができ、学びの連続性を生かせることが出来た。 <u>思考ツールや資料、動画を活用した学習展開</u> ステップチャート、ウェビングマップ、クラゲチャート等の思考ツールを活用し、情報を整理し、児童の思考を可視化することで問題点や解決の方向性を見える化した。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	知水資料館に行き荒川の歴史や水門の役割を知って、自分、家族の命を守ろうとする意識を高めることができた。また、グループで情報を集め、その知識を得るとともに防災について考えようとする意識を高めることができた。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援の概要	知水資料館に行く際は、目的を意識しインタビューをしたり、資料、インターネットを活用したりし、様々な手段によって情報の収集を事前に行ってから向かった。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	スライド作成・校内で発表する資料			学級で互いに発表		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 家庭への防災の取り組みの効果的な呼びかけを学んでいく。 課題解決に向け、児童の思考を整理し、情報に関連付けたり、整理したり、分析したりする力をより身に付ける。 河川教育により興味をもてるように外部人材の有効的な活用をしていきたい。 						

助成番号	助成事業名		学校名			
2023-7214-009	荒川フィールド学習		北区立岩淵小学校			
所在地	東京都北区	対象河川名	荒川			
対象学年	6学年(42人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	ふるさと荒川への理解が深まり、自分と荒川との良好な関係が、さらに強いものとなるとともに安全な生活のために自ら考え行動できるようにする。					
育成したい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合い活動に重点を置き、友達と協力して問題を解決する力や、協同して学習する態度を育成する。 地域の実態や環境問題の現状、さらにそこに携わる人たちの思いや願い、取り組みについて知ることができるようにする。 情報に関連付けたり、整理したり、分析したりすることを通して、よりよい荒川の環境をつくるために大切なことが理解できるようにする。 荒川の環境問題を自分ごととして捉え、社会や地域の一員として対策を考え、取り組むことを通して、持続可能な社会の実現に向けて問題を解決していくことができるようにする。 					
学習活動の内容と成果						
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の「総合的な学習の時間」における活動を振り返り、本年度の活動について検討した。 インターネットや資料などで収集した多様な情報を、思考ツールを用いて整理した。 整理された情報を見つめ直し、お互いに考えや意見を出し合ったり、受け入れたりして、協同しながら見通しや計画を確かめ合った。 知水資料館で収集した情報を整理し、よりよい荒川の未来のために自分達が何について探求していきたいか考えた。 知水資料館に行く際は、目的を意識しインタビューをしたり、資料、インターネットを活用したりし、様々な手段によって情報の収集を行った。2回目の知水資料館に行く際は、グループで課題を決め、情報収集するようにした。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知水資料館の方から話をしてもらったり、グループで分かれそれぞれでテーマを掲げ、荒川の未来について考えたこと、身近な荒川を大切にしようという気持ちを高めることができた。 自分たちが体験したことや追及する活動の中で気付いたり発見したりしたことの中から、荒川の未来をよりよくするためにどのようなしたら良いかを自分たちなりにまとめることができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <u>思考ツールや資料、動画を活用した学習展開</u> ウェビングマップやクラゲチャート等の思考ツールを活用し、情報を整理し、児童の思考を可視化することで問題点や解決の方向性が見える化した。 <u>対象学年の学習のつながり</u> 昨年は荒川の自然・防災等、自分たちがより知りたい情報を調べていく活動を設定した。今年は、荒川のよりよい未来を考えていく活動を設定し、自分たちが荒川にどのように働きかけることが大切かを考えた。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	知水資料館に行き荒川の歴史や水門の役割を知って、未来の荒川について考えようとする意識を高めることができた。知水資料館に行き、グループで決めたテーマについて情報を集め、その知識を得るとともに未来の荒川について考えようとする意識を高めることができた。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援の概要	知水資料館に行く際は、目的を明確にしたインタビューをしたり、資料やインターネットを活用したりするなど、様々な手段によって情報の収集を行った。2回目の知水資料館に行く際は、グループで課題を決め、情報収集するようにした。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	新聞作成・校内で発表する資料			学級で互いに発表・新聞の掲示		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、児童の思考を整理し、情報に関連付けたり、整理したり、分析したりする力をより身に付ける。 河川教育により興味もてるように外部人材の有効的な活用をしていきたい。 						

河川教育計画書【複数学年1年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習		学校名	東京都北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009								
2.河川教育の目標	○自然に親しみ、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成する。 ○自然災害等の現状や対策について理解を深め、災害に対する的確な思考・判断に基づく意思決定や行動選択を通して、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりに進んで参加・協力できる人材を育成する。													
3.育成したい資質・能力	【知識及び技能】荒川周辺での自然に親しむ活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付く。 【思考力、判断力、表現力等】身近な人々、荒川の自然を自分との関わりで捉え、表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】身近な人々、自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。													
4.学年／人数	第1学年 (2学級)		40人(想定)											
5.単元構想														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
単元目標	<p>単元名:きせつとなかよし はる・なつ(内容5、内容4・6・8・9)</p> <p>○春や夏の自然について諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりすることを通して、春や夏の特徴や違いを見付け、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができる。 ○自然や生活の様子の変化や、自然の面白さや不思議さなどについて気付き、生活上必要な技能や習慣を身に付けることができる。 ○季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができる。</p> <p>主たる教科:生活科 関連教科:国語・道徳 30時間</p>						<p>単元名:きせつとなかよし あき ふゆ(内容5、内容4、6、8、9)</p> <p>○自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、水辺や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付くことができる。 ○秋の自然について諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見付けることや、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができる。 ○季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。</p> <p>主たる教科:生活科 関連教科:図工 30時間</p>							
	<p>主たる教科:生活科 関連教科:国語・道徳 30時間</p> <p>主たる教科:生活科 関連教科:図工 30時間</p>													
主な学習活動	<p>○春から夏の遊びのイメージを膨らませる。 ○野原や公園の様子を想起させる。また、みんなでしてみたい季節の特徴を生かした遊びを話し合い、子どもの水辺での活動への見通しを立てる。 ○友達と一緒に生きものや樹木、草花などとふれ合って遊んだり、出会った人々と関わったりしながら楽しく遊ぶ。 ○見つけたことや楽しかったことを友達に伝える。</p>			<p>○子どもの水辺へ出かけ、友達と一緒に生きものや樹木、草花などとふれ合って遊んだり、出会った人々と関わったりしながら楽しく遊ぶ。 ○諸感覚を使って自然物にはたらきかけながら春を感じたり、前回と変わった自然の様子に気付いたりする。 ○野原や公園で、草花遊びや生きもの探しをする。 ○見つけた生き物の名前を(教科書や図鑑で)調べたり、観察したりする。</p>			<p>○子どもの水辺へクロベンケイガニを探しに行く。水辺の様子を想像し、カニ釣りに必要な道具などを準備する。 ○見つけたことや楽しかった遊び、驚いたことや不思議に思ったことなどを絵や文などにして表現したり、友達と伝え合ったりする。 ○友達との伝え合いを通して、以前来たときとの違いや季節の特徴について考えたり話し合ったりする。</p>			<p>○秋の水辺は、夏と比べて、どのように変わったか予想をする。 ○秋の水辺へ出かけ、春や夏に虫を見つけた場所で虫や虫のすみかを探す。 ○秋の草花や樹木などを観察し、季節の変化に気付く。 ○木の実や葉を拾って、どのような場所にあったかを考えたり、友達と伝え合ったりする。 ○木の実や葉でどのような遊びをしたいか考えたり伝え合ったりする。</p>			<p>○水辺で草や木の実を集めたり遊んだりする。 ○集めた木の実や葉について、友達と伝え合う。 ○集めた木の実や葉で、どんなことをしてみたいか考える。 ○集めた木の実や葉の特性を生かして、簡単な遊びを楽しむ。 ○作ったもので友達と一緒に遊んだり、遊び方を工夫して楽しんだりする。</p>	
	評価の観点	<p>(知)春の自然遊びの楽しさや、自然の面白さや不思議さなどについて気付いている。 (思)春の特徴や違いを見付け、遊ぶ方法を考えたり、遊んだりしている。 (主)興味をもって草花や生き物をさがそうとしている。</p>			<p>(知)春から夏へと季節が移り変わっていることや、自然遊びの楽しさや、自然の面白さや不思議さなどについて気付いている。 (思)春から夏への季節の特徴や違いを見付け、草花や生き物を探している。 (主)興味をもって草花や生き物をさがそうとしている。</p>			<p>(知)クロベンケイガニのすみかをさがしてカニ釣りをしている。 (思)カニの釣り方のコツを考えて友達に説明している。 (主)生きものに興味をもって探したり、諸感覚を使って遊びを創り出したりして、遊びや生活を楽しくしようとしている。</p>			<p>(知)秋の水辺で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、自然の様子や季節の変化に気付いている。水辺で遊ぶときのルールやマナーを守って遊ぶことに気付いている。</p>		<p>(思)水辺の草や実を使って遊んだり、秋らしい自然の様子をさがしている。自然物を使って遊ぶ活動を通して、他の季節との違いや特徴見付けている。 (主)秋らしい草花や生き物を探したり草のみで遊んだり自然物を使って遊んだりして、みんなと遊びを創り出そうとしている</p>	

河川教育計画書【複数学年2年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習		学校名	東京都北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009							
2.河川教育の目標	○自然に親しみ、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成する。 ○自然災害等の現状や対策について理解を深め、災害に対する的確な思考・判断に基づく意思決定や行動選択を通して、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりに進んで参加・協力できる人材を育成する。												
3.育成したい資質・能力	【知識及び技能】荒川周辺での自然に親しむ活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付く。 【思考力、判断力、表現力等】身近な人々、荒川の自然を自分との関わりで捉え、表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】身近な人々、自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。												
4.学年／人数	第2学年 (1学級) 35人												
5.単元構想													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
単元目標	単元名:『わくわく2年生』(内容9 内容3)		単元名:あら川 新はっ見!(内容7 内容8) ~めざせ、生きものはかせ~				単元名:あら川 新はっ見!(内容7 内容8) ~めざせ、生きものはかせ						
	新1年生と関わったり、春の水辺で春らしい自然を探したり遊んだりする活動を通して、2年生になってやってみたいことなどについて考えることができる。 季節が廻ったことや自分の成長に気づき、1年生との関わり方について考えることができる。 これからの学校生活への期待と自分の成長への自信をもち、意欲的に生活することができるようにする。		生き物を育てる活動を通して、これまで飼育した経験を生かして、生きものを大切に育てるために必要なことを考えたり、飼い方や育て方などの情報を本や図鑑などで調べたりすることができる。 生き物も自分と同じように成長し、生命をもっていることに気づき、生活上必要な習慣や技能を身に付け、生き物への親しみをもち、それらの生命を大切に感じながら育てることができるようにする。				秋から冬にかけての水辺で、虫など小さな生き物や、草木の実を探したり、これまでに学習した経験を生かし、虫を育てたり草木の実で遊んだりする活動を通して、虫がよりよく成長することができるように必要な世話の仕方を考えたり、草木の実での遊び方を工夫したり教え合ったりして季節に合った楽しみ方ができるようにする。						
主たる教科:生活科 関連教科:道徳・国語		11時間	主たる教科:生活科 関連教科:図工				20時間	主たる教科:生活科 関連教科:国語		30時間			
主な学習活動	○2年生に進級し、新1年生を迎えることへの期待や喜びをカードに書いたり、伝え合ったりする。 ○新1年生にしてあげたいことや教えてあげたいことを話し合う。 学校のまわりや水辺でどんな春を見つけられるか予想する。 ○「新1年生にこんなことつたえたいな」を書き、自分の思いを整理する。 ○新1年生と一緒に水辺へ出かけ、草花や生き物を探したり草花遊びをしたりする。		○これまでに自然の中で見つけた生きものや、飼ったことのある生きものについて話し合う。 ○生きもの探しに行く場所や準備について話し合う。 ○水辺でクロベンケイガニを見つけ、飼うために、水辺で確かめてくることについて話し合う。				○安全に気をつけて水辺へクロベンケイガニを探しに出かける。 ○友達と情報交換しながらクロベンケイガニを探したり、捕まえたりする。 ○活動を振り返り、カニ釣りの感想を伝えたり、生活科ノートに記録したりする。 ○捕まえたクロベンケイガニを育てるためにすみかやえさについて話し合う。 ○飼い方について、生きものに詳しい人に聞いたり、調べたりする。 生きものに合ったすみかや餌を準備し、育てる。○自分の飼っている生きものを紹介し合うことについて話し合う。 生き物を育てて思ったことや感じたこと、自分自身の成長などについて話し合う。 飼った後は生きものをどうするのかを話し合う。		○水辺へ出かけ、草木の実や虫などの生き物を探したり草の実で遊んだりする。 ○情報交換しながら草木の実や虫などの生き物を探る。 ○捕まえた虫などを育てるためにすみかやえさについて調べ、すみかを整え世話をする。 ○自分の飼っている生きものを紹介し、図鑑をつくり1年生に紹介する。 ○生き物を育てて思ったことや感じたこと、自分自身の成長などについて話し合い、飼った後は生きものをどうするのかを話し合う。		○1年生と一緒に水辺へ出かけ、草木の実や虫などの生き物を探したり草の実で遊んだりする。 ○情報交換しながら草木の実や虫などの生き物を探る。 ○水辺で見つけた草の実等を利用して秋の遊びを工夫してつくり、みんなで楽しく遊ぶ。 ○「秋あそびの会」を計画し、1年生を招待して一緒に遊ぶ。		
評価の観点	(知) 季節が廻ったことや自分の成長に気づき、新1年生と適切に関わっている。(思) 新1年生に教えてあげたいことや、2年生になってやってみたいことなどについて考え、伝えようとしている。 (主) これからの学校生活への期待と自分の成長への自信をもち、意欲的に生活しようとしている。		(知) 生き物たちも自分たちと同じように成長し、生命をもっていることに気づき、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。 (思) 生き物たちがすんでいた環境から、飼育環境や世話の仕方を考え、生き物の生態や形態を自分なりの表現方法で表現している。 (主) 飼育している生き物の生息環境や生態・成長の様子などに関心をもって関わり、大切にしようとしている。				(知) ①秋の水辺で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、自然の様子や季節の変化に気付いている。 ②秋の自然遊びの楽しさや、自然の面白さや不思議さなどについて気付いている。 ③水辺で遊ぶときのルールやマナーを守って遊ぶことに気付いている。 (思) ① 生き物たちがすんでいた環境から、飼育環境や世話の仕方を考え、生き物の生態や形態を自分なりの表現方法で表現している。 ②水辺の草木の実を利用して遊ぶ方法やルールを考えて遊んだり、遊びの楽しさを身近な人と伝え合ったりしている。 (主) ①飼育している生き物の生息環境や生態・成長の様子などに関心をもって関わり、大切にしようとしている。						

河川教育計画書【複数学年3年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習		学校名	東京都北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009						
2.河川教育の目標	○自然に親しみ、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成する。 ○自然災害等の現状や対策について理解を深め、災害に対する的確な思考・判断に基づく意思決定や行動選択を通して、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりに進んで参加・協力できる人材を育成する。											
3.育成したい資質・能力	【知識及び技能】「荒川おすすめスポット探し」の探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】身近な荒川の河川敷等の環境を探る取組について、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】「荒川おすすめスポット探し」の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に荒川に関する自然環境や地域の歴史や文化に関わろうとする態度を養う。											
4.学年／人数	第3学年（1学級） 33人											
5.単元構想												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元目標	単元名：荒川探検隊		単元名：わたしたちの町たんけんたい		単元名：動物のすみか							
	○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持のバランスについて考えるとともに、体験をもとに、自分の思いを表現する		○荒川の自然環境についての現状や問題点、そのための対策、自分たちができること等について、情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信できるようにする		生物が生息している場所に注目して、生息している場所を比較しながら生物と環境との関わりについて調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を養うことができるようにする。							
	主たる教科：総合 関連教科：図工 10時間		主たる教科：総合 関連教科：社会 20時間		主たる教科：理科 関連教科：総合 10時間							
主な学習活動	○学校の近くを流れる荒川で、植物や生き物と触れ合い、自然環境を考える活動を行う。 ○学校の近くの荒川にある人工物が果たす社会的な役割を考え、その効果について理解する学習活動を行う。 ○自然環境と人間社会の調和やバランスについてイメージをふくらませ、自身を思いを表現する活動を行う。		○荒川の自然を守る活動をしている水辺の会の人と交流を通して、荒川のよさに触れ、荒川土手や水辺の動植物と触れ合う体験を通して、荒川への愛着を深め、郷土を愛する心を育てていく。 ○荒川周辺の植物の観察、動物の棲家などの観察を通して、荒川の自然環境のよさを考える調べ学習を行う。 ○情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信する学習活動を行う。		○荒川の河川敷周辺で動物を探して、動物がいる場所について気付いたことを話し合う。 ○見つけた動物がいた場所の様子と他の動物がいた場所の様子を比べながら調べる。							
	○知識・技能 対象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ○思考・判断・表現 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、自分の見方や感じ方を深めたりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 身の周りにおける自然や人間社会の構造物を描くことについてつくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。		○知識・技能 自分たちの街の一部としての荒川を考える学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 ○思考・判断・表現 荒川に関わるこれまでの学習経験や、体験の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に地域の社会に参画しようとしている。		○知識・技能 ・生物と環境との関わりについて、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 ・生物は、周辺の環境と関わって生きていることを理解している。 ○思考・判断・表現 ・生物と環境との関わりについて、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題解決している。 ・生物と環境との関わりについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・生物と環境との関わりについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。							

河川教育計画書【複数学年4年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習	学校名	東京都北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009
2.河川教育の目標	○自然に親しみ、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成する。 ○自然災害等の現状や対策について理解を深め、災害に対する的確な思考・判断に基づく意思決定や行動選択を通して、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりに進んで参加・協力できる人材を育成する。				
3.育成したい資質・能力	【知識及び技能】「荒川クリーン大作戦」の探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】身近な荒川の河川敷等の自然環境を守るための取組について、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】「荒川クリーン大作戦」の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に自然環境の維持、向上の取組に参画しようとする態度を養う。				
4.学年／人数	第4学年（2学級） 40人				

5.単元構想		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元目標	<p>単元名：荒川写生会</p> <p>○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持のバランスについて考えとともに、体験をもとに、自分の思いを表現する。</p> <p>主たる教科：図工 4時間</p>	<p>単元名：荒川クリーン大作戦</p> <p>○荒川の自然環境についての現状や問題点、そのための対策、自分たちができること等について、情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信できるようにする。</p> <p>主たる教科：総合的な学習の時間 20時間</p>											
	<p>単元名：雨水のゆくえ</p> <p>○水の流れやしみ込み方、行方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさ、水の状態変化とを関係付けて、雨水の行方と地面の様子、自然界の水の様子について理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を養うことができるようにする。</p> <p>主たる教科：理科 10時間</p>	<p>単元名：江戸の文化を伝える浅草(社会科見学)</p> <p>○東京都の特色ある地域である浅草について、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、浅草では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにする。</p> <p>主たる教科：社会科 10時間</p>											
主な学習活動	<p>○学校の近くを流れる荒川で、植物や生き物と触れ合い、自然環境を考える活動を行う。</p> <p>○学校の近くの荒川にある人工物が果たす社会的な役割を考え、その効果について理解する学習活動を行う。</p> <p>○自然環境と人間社会の調和やバランスについてイメージをふくらませ、自身を思いを表現する活動を行う。</p>	<p>○荒川の自然を守る活動をしている水辺の会の人と交流を通して、荒川の自然環境の実態に知り、どんな取組をしているのか理解する学習活動を行う。</p> <p>○かいぼり体験等を通して、荒川の自然環境の実際について考えたり、自分たちができることなどを考える調べ学習を行う。</p> <p>○情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信する学習活動を行う。</p>											
評価の観点	<p>○知識・技能 対象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。</p> <p>○思考・判断・表現 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えとともに、自分の見方や感じ方を深めたりしている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度 身の周りがある自然や人間社会の構造物を描くことについてつくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>○知識・技能 荒川の自然環境を考える学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。</p> <p>○思考・判断・表現 荒川に関わるこれまでの学習経験や、体験の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に地域の社会に参画しようとしている。</p>											
		<p>○雨水の行方について整理し、水がどのように流れていくのか考える学習活動を行う。</p> <p>○地面の傾きと水の流れる方向の関係を調べる。</p> <p>○土の粒の大きさと水のしみ込み方との関係を調べる。</p> <p>○水が空気中に出て行くか、水を入れた入れ物を使って比べながら調べる。</p> <p>○空気中には、水蒸気がどこにでも含まれているのか、予想する。</p> <p>○水蒸気が空気中に含まれているか、保冷剤を使って比べながら調べる。</p>											
		<p>○浅草周辺の地域の様子について河川敷の町並みや地形に着目して調べる。(社会科見学)</p> <p>○浅草では、歴史あるまちをどのようにして守っているのか、資料を活用して調べる。</p> <p>○浅草では、歴史や景観を生かしたまちづくりをどのように行っているのか、資料を活用して調べる。</p> <p>○古くから伝わる文化財を生かしたまちづくりを未来へつなげていくための取組について調べる。</p>											

河川教育計画書【複数学年5年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習		学校名	東京都北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009																																																																												
2.河川教育の目標	○自然に親しみ、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成する。 ○自然災害等の現状や対策について理解を深め、災害に対する的確な思考・判断に基づく意思決定や行動選択を通して、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりに進んで参加・協力できる人材を育成する。																																																																																	
3.育成したい資質・能力	【知識及び技能】「岩淵水門から考える治水と防災」の探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする 【思考力、判断力、表現力等】岩淵水門を中心とした治水対策、防災対策等の学習から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】「岩淵水門から考える治水と防災」の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に防災、減災の取組に参画しようとする態度を養う。																																																																																	
4.学年／人数	第5学年（1学級） 28人																																																																																	
5.単元構想	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">月</th> <th style="width: 10%;">4</th> <th style="width: 10%;">5</th> <th style="width: 10%;">6</th> <th style="width: 10%;">7</th> <th style="width: 10%;">8</th> <th style="width: 10%;">9</th> <th style="width: 10%;">10</th> <th style="width: 10%;">11</th> <th style="width: 10%;">12</th> <th style="width: 10%;">1</th> <th style="width: 10%;">2</th> <th style="width: 10%;">3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">単元目標</td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元名：荒川写生会 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元名：荒川防災プロジェクト </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元名：流れる水の働き </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持のバランスについて考えるとともに、体験をもとに、自分の思いを表現する </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○荒川の治水への備えとして、現状や問題点、そのための対策、自分たちにできること等について、情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信できるようにする。 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○流れる水は土地の様子を変えることや増水による災害に興味をもち、地面などに水を流して調べる。また、実験結果を基に、川とその周りの土地の様子についての資料や実際の川などを調べて、川の上流と下流では、川原の石の大きさや形に違いがあり、流れる水には、土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあること、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化する可能性があることをとらえることができるようにする。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主たる教科：図工 4時間 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：社会、理科 30時間 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 12時間 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主な学習活動</td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○学校の近くを流れる荒川で、植物や生き物と触れ合い、自然環境を考える活動を行う。 ○学校の近くの荒川にある人工物が果たす社会的な役割を考え、その効果について理解する学習活動を行う。 ○自然環境と人間社会の調和やバランスについてイメージをふくらませ、自身を思いを表現する活動を行う。 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○国土交通省 荒川下流河川事務所所有の災害対策支援船への試乗などを通して、荒川の治水に知り、各種対策を理解する学習活動を行う。 ○荒川で起きる可能性がある災害の規模や対策などの調べ学習を行う。 ○情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信する学習活動を行う。 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○これまでの生活経験や洪水後の写真を見て、流れる水にはどのような働きがあるのか予想する。 ○実験用の川モデルを使って実験を行う。 ○川の曲がったところでの、流れる水の働き、水の量が増えたときの、流れる水の働きの大きさについて予想し、実験を通して考える学習活動を行う。 ○川の上流、中流、下流の石を見て、石の大きさや形について調べていく。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価の観点</td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○知識・技能 対象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ○思考・判断・表現 造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、自分の見方や感じ方を深めたりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 身の周りがある自然や人間社会の構造物を描くことについてつくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○知識・技能 荒川の防災を考える学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 ○思考・判断・表現 荒川のこれまでの災害の様子や、現在の防災対策からの中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に地域の社会に参画しようとしている。 </td> <td colspan="5" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○知識・技能 ・流水の速さや量と働きについて調べ、その過程や結果を記録し、侵食・運搬・堆積の働きがあることを理解している。 ・川の上流と下流によって、河原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 ・雨の降り方によって、流水の速さや水の量が変わることや、増水によって土地の様子が変化することを理解している。 ○思考・判断・表現 ・流水の働きと土地の変化を関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 ・川の上流と下流によって、石の大きさや形に違いがあることを、流水の働きと関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・川の上流と下流によって石の大きさや形に違いがある原因を主体的に調べようとしている。 ・川の様子に興味・関心をもち、流水の働きを調べようとしている。 ・今までの学習を生かし、災害を防ぐ工夫や災害時の対策について主体的に考えようとしている。 </td> </tr> </tbody> </table>						月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	単元目標	単元名：荒川写生会		単元名：荒川防災プロジェクト					単元名：流れる水の働き					○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持のバランスについて考えるとともに、体験をもとに、自分の思いを表現する		○荒川の治水への備えとして、現状や問題点、そのための対策、自分たちにできること等について、情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信できるようにする。					○流れる水は土地の様子を変えることや増水による災害に興味をもち、地面などに水を流して調べる。また、実験結果を基に、川とその周りの土地の様子についての資料や実際の川などを調べて、川の上流と下流では、川原の石の大きさや形に違いがあり、流れる水には、土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあること、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化する可能性があることをとらえることができるようにする。					主たる教科：図工 4時間		主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：社会、理科 30時間					主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 12時間					主な学習活動	○学校の近くを流れる荒川で、植物や生き物と触れ合い、自然環境を考える活動を行う。 ○学校の近くの荒川にある人工物が果たす社会的な役割を考え、その効果について理解する学習活動を行う。 ○自然環境と人間社会の調和やバランスについてイメージをふくらませ、自身を思いを表現する活動を行う。		○国土交通省 荒川下流河川事務所所有の災害対策支援船への試乗などを通して、荒川の治水に知り、各種対策を理解する学習活動を行う。 ○荒川で起きる可能性がある災害の規模や対策などの調べ学習を行う。 ○情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信する学習活動を行う。					○これまでの生活経験や洪水後の写真を見て、流れる水にはどのような働きがあるのか予想する。 ○実験用の川モデルを使って実験を行う。 ○川の曲がったところでの、流れる水の働き、水の量が増えたときの、流れる水の働きの大きさについて予想し、実験を通して考える学習活動を行う。 ○川の上流、中流、下流の石を見て、石の大きさや形について調べていく。					評価の観点	○知識・技能 対象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ○思考・判断・表現 造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、自分の見方や感じ方を深めたりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 身の周りがある自然や人間社会の構造物を描くことについてつくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。		○知識・技能 荒川の防災を考える学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 ○思考・判断・表現 荒川のこれまでの災害の様子や、現在の防災対策からの中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に地域の社会に参画しようとしている。					○知識・技能 ・流水の速さや量と働きについて調べ、その過程や結果を記録し、侵食・運搬・堆積の働きがあることを理解している。 ・川の上流と下流によって、河原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 ・雨の降り方によって、流水の速さや水の量が変わることや、増水によって土地の様子が変化することを理解している。 ○思考・判断・表現 ・流水の働きと土地の変化を関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 ・川の上流と下流によって、石の大きさや形に違いがあることを、流水の働きと関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・川の上流と下流によって石の大きさや形に違いがある原因を主体的に調べようとしている。 ・川の様子に興味・関心をもち、流水の働きを調べようとしている。 ・今までの学習を生かし、災害を防ぐ工夫や災害時の対策について主体的に考えようとしている。				
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																						
単元目標	単元名：荒川写生会		単元名：荒川防災プロジェクト					単元名：流れる水の働き																																																																										
	○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持のバランスについて考えるとともに、体験をもとに、自分の思いを表現する		○荒川の治水への備えとして、現状や問題点、そのための対策、自分たちにできること等について、情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信できるようにする。					○流れる水は土地の様子を変えることや増水による災害に興味をもち、地面などに水を流して調べる。また、実験結果を基に、川とその周りの土地の様子についての資料や実際の川などを調べて、川の上流と下流では、川原の石の大きさや形に違いがあり、流れる水には、土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあること、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化する可能性があることをとらえることができるようにする。																																																																										
	主たる教科：図工 4時間		主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：社会、理科 30時間					主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 12時間																																																																										
主な学習活動	○学校の近くを流れる荒川で、植物や生き物と触れ合い、自然環境を考える活動を行う。 ○学校の近くの荒川にある人工物が果たす社会的な役割を考え、その効果について理解する学習活動を行う。 ○自然環境と人間社会の調和やバランスについてイメージをふくらませ、自身を思いを表現する活動を行う。		○国土交通省 荒川下流河川事務所所有の災害対策支援船への試乗などを通して、荒川の治水に知り、各種対策を理解する学習活動を行う。 ○荒川で起きる可能性がある災害の規模や対策などの調べ学習を行う。 ○情報を収集・整理・分析し、目的に見合った手法で情報をまとめ、発信する学習活動を行う。					○これまでの生活経験や洪水後の写真を見て、流れる水にはどのような働きがあるのか予想する。 ○実験用の川モデルを使って実験を行う。 ○川の曲がったところでの、流れる水の働き、水の量が増えたときの、流れる水の働きの大きさについて予想し、実験を通して考える学習活動を行う。 ○川の上流、中流、下流の石を見て、石の大きさや形について調べていく。																																																																										
	評価の観点	○知識・技能 対象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ○思考・判断・表現 造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、自分の見方や感じ方を深めたりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 身の周りがある自然や人間社会の構造物を描くことについてつくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。		○知識・技能 荒川の防災を考える学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 ○思考・判断・表現 荒川のこれまでの災害の様子や、現在の防災対策からの中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に地域の社会に参画しようとしている。					○知識・技能 ・流水の速さや量と働きについて調べ、その過程や結果を記録し、侵食・運搬・堆積の働きがあることを理解している。 ・川の上流と下流によって、河原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 ・雨の降り方によって、流水の速さや水の量が変わることや、増水によって土地の様子が変化することを理解している。 ○思考・判断・表現 ・流水の働きと土地の変化を関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 ・川の上流と下流によって、石の大きさや形に違いがあることを、流水の働きと関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・川の上流と下流によって石の大きさや形に違いがある原因を主体的に調べようとしている。 ・川の様子に興味・関心をもち、流水の働きを調べようとしている。 ・今までの学習を生かし、災害を防ぐ工夫や災害時の対策について主体的に考えようとしている。																																																																									

河川教育計画書【複数学年6年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習				学校名	東京都北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009				
2.河川教育の目標	○自然に親しみ、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成する。 ○自然災害等の現状や対策について理解を深め、災害に対する的確な思考・判断に基づく意思決定や行動選択を通して、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりに進んで参加・協力できる人材を育成する。											
3.育成したい資質・能力	【知識及び技能】「未来の荒川を考える」探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】これまで学習してきた荒川に関連した自然環境、治水対策、防災対策等の学習から問いを見出し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】「未来の荒川を考える」探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に河川整備、自然環境の維持・向上に参画しようとする態度を養う。											
4.学年／人数	第6学年（2学級） 42人											
5.単元構想												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元目標	単元名：荒川写生会			単元名：土地のつくりと変化				単元名：荒川の未来を考えよう				
	○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持のバランスについて考えるとともに、体験をもとに、自分の思いを表現する。			○土地やその中に含まれている物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、土地のつくりや変化についての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を養うことができるようにする。				○荒川のとよさと課題及びそれに携わる人々の願いなどをふまえて、地域の未来像と自分たちの生活との関わりを考えて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究し、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。				
	主たる教科：図工		4時間	主たる教科：理科				11時間	主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：理科、社会、道徳			110時間
主な学習活動	○学校の近くを流れる荒川で、植物や生き物と触れ合い、自然環境を考える活動を行う。 ○学校の近くの荒川にある人工物が果たす社会的な役割を考え、その効果について理解する学習活動を行う。 ○自然環境と人間社会の調和やバランスについてイメージをふくらませ、自身を思いを表現する活動を行う。			○地層に関する観察を通して、土地をつくっているものについて考える学習活動を行う。 ○地層のでき方について、流れる水の働きや火山の働きについて理解したり、考えたりする学習活動を行う。 ○火山活動や地震による土地の変化について、理解したり、考えたりする学習活動を行う。				○船上から見る荒川の流域周辺を観察し、その特徴や様子をとらえる学習を行う。 ○船上から見た荒川の流域の様子やこれまでの学習してきた荒川に関する学習の経験から、これからの荒川をより良くしていくために必要なアイデアや取組が何か考える。 ○荒川の自然環境や周辺の人間社会の発展のために必要なことや、自分たちができることなどを考えをまとめ提言にまとめる。				
	○知識・技能 対象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ○思考・判断・表現 造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、自分の見方や感じ方を深めたりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 身の周りにある自然や人間社会の構造物を描くことについてつくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。			○知識・技能 地層は流れる水の働きによってできることを理解している。 ○思考・判断・表現 土地のつくりと変化について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、解決方法を発想し、表現するなどして問題解決をしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 土地の作りと変化についての事象・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。				○知識・技能 荒川の未来を考える学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 ○思考・判断・表現 荒川の流域の様子やこれまでの学習の経験の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に地域の社会に参画しようとしている。				
評価の観点	○知識・技能 対象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ○思考・判断・表現 造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、自分の見方や感じ方を深めたりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 身の周りにある自然や人間社会の構造物を描くことについてつくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。			○知識・技能 地層は流れる水の働きによってできることを理解している。 ○思考・判断・表現 土地のつくりと変化について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、解決方法を発想し、表現するなどして問題解決をしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 土地の作りと変化についての事象・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。				○知識・技能 荒川の未来を考える学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 ○思考・判断・表現 荒川の流域の様子やこれまでの学習の経験の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に地域の社会に参画しようとしている。				

1.助成事業名	荒川フィールド学習	学校名	東京都北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009
---------	-----------	-----	-------------	------	---------------

2.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

きせつとなかよし はる・なつ

5月、6月と荒川に出かけ、水辺の様子を観察した。観察場所は学校から徒歩15分くらいのところで、荒川土手は子供たちにとって身近な場所である。しかし、そこに生息している生き物や植物の名前や、どんな生活をしているのかについては知らない児童が多かった。
日本生態系協会や水辺の会の方から、実物や写真を示しながら詳しく説明していただき、安全に気を付けて活動することで、草花あそびやカニ採りの楽しさを体感することができた。また、採集した植物やカニを学校に戻ってから大切に扱おうとする姿が見られ、自然への愛着が高まっている様子が伝わってきた。



きせつとなかよし あき・ふゆ

北区こどもの水辺での活動も3回目になり、葉っぱの色の変化や、様々な草木が実を付けていることに気付くことができた。「水辺の会」や日本生態系協会の方々に、秋の草花を使った遊びや、捕虫網の使い方を教えていただいた。バッタやコオロギ、トンボなどを採集し、季節によって、水辺で見られる虫が異なることにも気付くことができた。水辺では、オナモミが群生しており、学校に持ち帰って教えてもらった遊びを発展させて楽しむ姿も見られた。

学習活動の結果

<p>関連教科:生活 3時間</p> <p>がっこうをたんけんしよう 【生活】 校内や校庭をみんなで歩き、学校には様々な場所があり、いろいろな人がいることに気付いた。校庭の花壇に咲いている春の花を見つけた。ピオトープで見られる植物や生きものを観察したりして、見つけたものを友達に伝え合うことができた。活動を通して、次は校外に春みつけに出かける意欲が高まった。</p>  	<p>関連教科:生活 3時間</p> <p>春をみつけにいこう 【生活】 水辺の広場での「草花あそび」を通して、タンポポやヘビイチゴなど、ピオトープで見つけたのと同じ植物を見つけて喜ぶ姿が見られた。ヨウシュヤマゴボウの実をつぶして色を確かめたり、草花を摘んで指輪や花輪を作って楽しんだ。</p> 	<p>関連教科:生活 10時間</p> <p>きれいにさいてね わたしのはな 【生活】 一人一鉢用意して、それぞれに思いや願いをもってアサガオの種まきをした。毎日水やりをし、葉が増えたり、つるのびたりする様子を観察し、生長の様子を喜ぶ姿が見られた。「がっこうたんけん」や荒川土手へのフィールドワークをリードしてくれた2年生から、アサガオの育て方について詳しく教わり、カードに絵と文で熱心に記録する姿が見られた。</p> 	<p>関連教科:生活 4時間</p> <p>なつをかんじよう 【生活】 「水辺の広場」にカニ採りに出かけた。前日からの雨で増水が心配されたが、当日はよく晴れ、干潮の時間を狙って行ったので、水も引いていて、カニをしっかりと観察することができた。日本生態系協会と水辺の会の方に、カニの種類やすみかについて教えていただいた後、川原に下りてカニ採りを行った。</p> 	<p>関連教科:図画工作 2時間</p> <p>全校写生会 【図画工作】 生活科のカニ採りで捕まえてきたカニをよく観察し、写生した。子供たちは、色や形、細部の様子をよく見て、それぞれに工夫して表現することができた。背景は、色水のシャボン玉でカニのあぶくを表現した。</p>  <p>カニは、学活で係を決めて、大切に世話をしている。</p> 	<p>関連教科:生活 14時間</p> <p>きせつとなかよし あき 【生活】 〇わくわくバッグをつくろう 秋探しに出かけるときに、木の実や落ち葉を拾って入れるためのバッグを作った。 一緒に出かける2年生が、牛乳パックをリサイクルして作るバッグの作り方を1年生にマンツーマンで教えてくれた。秋探しは、必ずこのバッグを持って出かけ、種類ごとに分けて入れたり、拾った物を見せ合ったりする姿が見られた。 〇あきを見つけないこう 春に出かけた北区 子どもの水辺に出かけ、草花遊びや虫取りを行った。葉っぱの様子や見られる虫が春と違っていることに気付いたり、オナモミや木の実を使った遊びを教えてもらったりして、季節の移り変わりや秋の自然の特徴に気付くことができた。 〇生き物わくわくクイズ 国語との関連で、秋の自然物や生き物について観察したり調べたりしてカードにまとめた。分かったことをクイズにしたり、発表したりした。 〇なにをかんだかな 収穫してきた秋の自然物を使って感じたことを出し合い、もっと楽しく遊ぶことができなにか考えた。 〇見つけたあきであそぼう 秋の自然物を使ってできる遊びを考えて、実際に試したり作ったりした。考えた遊びを伝え合い、もっと楽しくなる遊び方を友達と考えたりした。 〇みんなであきをたのしもう 友達と一緒に遊びのコーナーを作り、みんなで秋を楽しむ方法を考えた。クラスや学年で交流した後、2年生を招待して、自分たちが作ったおもちゃで遊び、みんなで遊ぶことの楽しさや、失敗しても改良しながらより楽しい遊びを作っていくおもしろさを存分に味わうことができた。</p>	<p>関連教科:国語 10時間</p> <p>しらせたいな 見せたいな 【国語】 教科書に載っている「ぼったのびよん」の例文を参考に、「あきさがし」で見つけた生き物について観察したり、調べたりして分かったことを絵と文でカードに表して紹介し合う活動をした。生活科で取り組んだ「いろ」「かたち」「大きさ」「うき」「さわったかんじ」など感覚ごとに書き込んだカードを元にしながら、さらに知りたいことを図書室の図鑑などで調べて紹介する文を書いた。</p>  <p>おたからばこに集めた「あきのおたから」を見ながら、どんな遊びができるか考えて試したり、作ったりする活動を行った。</p>	<p>関連教科:図画工作 2時間</p> <p>おたからばこをつくろう 【図画工作】 生活科の校外学習などで採集した木の実や落ち葉などの秋の「おたから」を保管しておくための宝箱を作った。 おたからばこは、教室前の廊下に並べ、友達と見せ合ったり、おもちゃの材料として、おたからと一緒に活用したりした。</p> 	<p>関連教科:生活 12時間</p> <p>きせつとなかよし ふゆ 【生活】 秋には色づいた葉っぱで美しかった木々が、すっかり葉を落としてしまったことに気付いたり、登校するなり、校庭のピオトープに氷が張っているのを見つけて見せてくれたりと、季節による自然の変化を敏感に感じ取れるようになった。冬の自然と触れ合ったり、昔の遊びに親しんだりして、冬の過ごし方や楽しさに気付くことができた。</p>  <p>初めての学芸会では、荒川の四季をテーマにした劇を演じた。荒川の活動を思い出しながら、台詞や動きを考え、みんなでつくり上げることができた。</p>
---	---	--	--	--	---	--	---	---

3.得られた成果
「水辺の会」や「日本生態系協会」の方々は、毎回実物や写真を準備して、荒川に生息する生き物や植物について詳しくレクチャーしてくださるので、見たことはあっても名前が知らなかった身近な動植物に対する知識が広がった。草花遊びやカニ採り、虫採りなどで採集してきた物は、教室に飾ったり飼育したりして、大切に世話をすることができた。「水辺の会」や「日本生態系協会」の方々に親切に接していただき、挨拶をしたり、質問したりする経験を通して、交流を深めることができた。また、毎回2年生と一緒に出かけ、マンツーマンで教えてもらう機会も多かったことから、学年を超えた子ども同士の関わりも深まっていくことが感じられた。「水辺の会」や「日本生態系協会」の方からは、外来種や外来生物によって、日本古来の生き物が減ってしまったり、生息範囲を狭められてしまったりしていることも教えていただき、新たな視点から自然を観察することができた。校外学習中に、荒川河川敷を散歩したりサイクリングしたりする地域の方に出会ったり、様々なゴミが捨てられているのを目にしたりしたことで、みんなが使う場所ではどのように過ごしたらよいのかについて、考えるきっかけにもなった。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果
就学前にコロナ禍を経て入学してきていることもあるのか、春に荒川に出かけたときには、虫を恐がったり、草むらに入ること拒んだりする姿が見られたが、校外学習に出かけたり、「水辺の会」や「日本生態系協会」の方々の話を聞いたりする活動を通して、草花や生き物と触れ合い、採集した木の実や落ち葉で遊ぶ体験を重ねたことで、だんだんと慣れ、自然に親しめるようになった。それぞれの季節の良さや違いを感じ取り、季節に応じた遊びを存分に楽しむことができた。このことは、6月と12月に実施したアンケートの結果にも表れている。季節ごとに荒川に出かけたことで、楽しい場所ではあるが、水辺は危険もあることを知ったり、みんなが使う場所だから大切にしようとする心情を育んだりすることができた。
12月に行われた学芸会では、荒川の四季をテーマに、新芽から落ち葉となって土に還るまでの葉っぱの様子を、季節ごとに見られる生き物や草花などとともに表現した。子供たちが葉っぱの衣装や小道具を製作したが、自分が担当する季節の葉っぱの色を工夫して表そうとしたり、照りつける太陽や激しく吹き付ける夕立や木枯らしなど、厳しい自然環境を体全体を使って表現しようとしたりする姿に、実際に荒川に出かけて、専門の方に教えていただきながら観察したり、五感を働かせて感じたりしたことの結果が大きく表れていると感じた。

河川教育 学習活動報告書【複数学年2年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習	学校名	岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009
---------	-----------	-----	-------	------	---------------

2.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

はっけん！水辺の広場
～草花あそび①めざせ 生きものはかせ①～

○1年生の活動を思い出しながら、水辺の広場で草花あそびをし、荒川での植物に親しむことができた。オオバコ相撲やシロツメクサの冠作り、桑の実を摘む等、昨年の活動を思い出し、取り組み姿が見られ、昨年度の活動が生かされていた。
○春の虫探しでは、葉に巣を作る虫がいる話を聞き、様々な場で生息している生きものがいることに興味をもつことができた。

関連教科:生活 5時間

関連教科:国語 5時間

草花あそび①
【生活】
桑の実を摘んだり、オオバコ相撲を楽しんだりした。見つけた草花で花束を作ったり、シロツメクサの冠を作って帽子に飾ったりと、春の草花に親しむことができた。



たんぼのちえ
【国語】
水辺の広場で見つけたタンポポの成長の様子を思い出し、学習に生かしていた。

ひかり小学校のじまはね
【道徳】
自分の学校のよさを伝え合う活動を通して、自分達が住んでいる町にも意識が広がり、荒川の自然や水辺の広場での活動の楽しさを思い出し、町の自慢の1つとして伝え合う姿が見られた。



めざせ生きものはかせ①
【生活】
日本生態系協会の方から葉に巣を作る虫について話を聞き、様々な場所に生息する生きものがいることに興味をもつことができた。

はっけん！水辺の広場
～めざせ 生きものはかせ②～

○水辺の広場で、クロベンケイガニを捕まえる活動を楽しんだ。去年の活動を思い出し、カニが隠れている場所を予想しながらカニを探していた。カニの動きや体のつくりに興味をもち、観察することができた。希望者は教室で飼育しているカニを家庭に持ち帰って世話を続け、カニに対する思いが深まった。カニは1年を通して教室で飼育した。飼育中に、カニの脱皮を観察する機会にも恵まれ、生きもののもつ不思議な力に興味をもつことができた。

関連教科:生活 20時間

関連教科:図画工作 2時間

町が大すきたんけんたい
【生活】
学校のまわりのお気に入りの場所として「水辺の広場」や荒川を紹介する児童が多かった。
お気に入りの理由として、自然が豊かなこと、草花あそびができること、カニとることができることなどがあがっていた。そこから学校の周りの施設や店にも意識が広がり、お気に入りの場所やもっと知りたい場所を調べ、友達に発表することができた。

じっくり見つめて
【図画工作】
水辺の広場で見つけたクロベンケイガニの体のつくりや動きを観察し、クレヨンと絵の具を使って絵を描くことができた。



はっけん！水辺の広場
～めざせ 生きものはかせ③～

・荒川子どもの水辺に虫とりに出掛け、秋に活動する虫とりをした。春の虫との違いに気付くとともに、虫の飼育に必要な餌や環境について生態系協会の方に質問したり、分からないことを本で調べたりしながら飼育することができた。虫に触れなかった児童も繰り返し虫とかかわる場を設けたことで生きものに愛着をもち進んで関わろうとする姿が見られた。荒川の環境が虫にとって住みやすいことに気付く、自然を大事にしたいという思いを深めることができた。

関連教科:生活 12時間

関連教科:道徳 1時間

めざせ いきものはかせ
【生活】
校庭や荒川で見つけた虫の観察や飼育を通して、虫の種類によって、食べるものや住んでいる場所が違うことに気付くことができた。活動を通して虫に親しみをもち、荒川に対してより愛着を深めることができた。
1年生を「虫まつり」に招待し、虫の飼育方法や済んでいる場所などを説明し、虫のさわり方なども話す姿が見られた。



いろいろな生きもの
【道徳】
自然に親しみ、動植物に優しく接しようとする心情を育てることをねらいとした説話を読み、自分の身近な場所にいる動植物への関心を高めることができた。
自然や動植物のもつ不思議さ、生命力など、自然や動植物と触れ合うことを通して実際に感じたり、気付いたりすることができた。



はっけん！水辺の広場
～草花あそび②めざせ 生きものはかせ④～

春の草花あそびと比較しながら、秋の草花遊びに取り組みめるよう日程を組んでいたが、10月に入っても気温の高い日が続き、10月下旬でもオナモミの実は十分に成長していなかった。緑の実を学校に持ち帰り、茶色になってからオナモミ遊びに取り組んだ。
生態系協会の方の話から、植物が種を遠くまで運ぶ知恵を知り、オナモミの特徴を生かした身の回りの物があることに気付くことができた。

関連教科:生活 4時間

関連教科:国語 1時間

関連教科:国語 6時間

めざせ 生きものはかせ
【生活】
オナモミやセイタカアワダチソウといった荒川の植物に触れ、植物が子孫を残すための知恵について知り、春の草花との違いにも気付くことができた。



秋がいっぱい
【国語】
秋に関する言葉をたくさん集め、身の回りの秋を進んで探すとともに、日々、変わる季節の変化に関心を高くもち生活することができた。



楽しかったよ、2年生
【国語】
1年間の活動をふり返る中で、四季を通して活動した荒川の動植物についてふり返り、自分の成長の記録と共に荒川のよさについて振り返ることができた。



3.得られた成果

荒川フィールド学習が2年目となり、年間を通じた活動の中で、児童が荒川の自然をより身近に感じることができ、自分の大好きな場所の1つとして、愛着を深めることができた。日本生態系協会の方や水辺の会の方々との交流を通して、荒川の自然を守るためにたくさんの人が携わっていることに気付くことができ、自分達も身近な自然を守っていききたいという思いをもつことができた。また、虫のかかわりの場を多く設定したことで、虫が苦手だった児童も、虫に興味をもち、自分から大切に飼育したり、休み時間に虫を探すが見られた。虫に触れなかった児童が、大切に飼育した虫を1年生に紹介し、愛おしそうに触る姿も見られた。学習後も児童の活動が継続し、進んで虫を飼育したり、虫について調べたりする姿が見られた。荒川フィールド学習での活動が児童の気付きを広げ、その後の児童の生活に広がりをもたせてくれていることを実感している。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

荒川は、児童にとって身近な場所であるが、家庭によっては、かかわる機会が少ない児童もいる。年間を通して荒川での活動を設定することで、自分たちの町への愛着を深めることにつながったと考える。荒川河川敷は季節によって、生息している植物や生き物が変わり、季節の変化を感じやすい。生活科の学習を主として、自然に親しむ活動を通して草花の様子や生きものの生態等、様々なことに気付くきっかけとなった。動植物や、そこに携わっている人々との交流を通して、荒川の自然に興味をもち、大切な場所をこれからも守っていききたいという願いをもち、一人一人が、荒川への愛着を深め、大切な場所として関わろうとする心情を育てることもできたと感じている。

学習活動の結果

1.助成事業名	荒川フィールド学習	学校名	北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009
---------	-----------	-----	----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

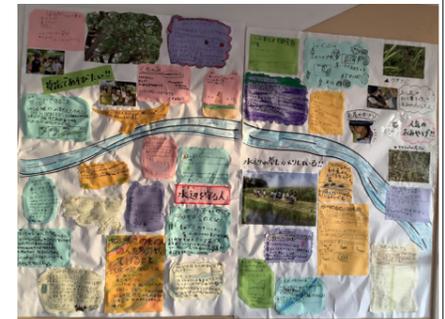
るるぶ岩淵(荒川編)／わたしたちの北区／こん虫のかんさつ

・荒川の水辺の植生や生き物について学習し、それを守るための活動についても興味の幅を広げた。
 ・まとめの活動を通して、自分達が学んだことを校内に伝えるために話し合いをしたり掲示物を作成したりした。

・荒川流域の土地や交通、暮らしの様子を船上学習によって実際に確かめた。
 ・荒川の学習をもとにして、地域の特徴やよさを探求する学習へと発展させた。
 ・荒川の水辺の生き物を保護し、継続して飼育した。

荒川フィールド学習
 るるぶ岩淵～荒川編②～
 【総合的な学習の時間】

アモア知水資料館の屋外にある、荒川の模型として製作された水辺(池)の掻い掘りを行った。荒川が上流からどのような植生を擁していて、どのような生き物が生息しているかを学ぶとともに、地点ごとに様々な植物や生き物がいることを知りノートに熱心にメモしていた。池を守るためには、水質を改善したり在来種を保護する必要があり、そのために掻い掘りを行うことが有効であると知り、寒空の下メダカ、ドジョウ、ヤゴなど多くの生物を保護することができた。中でも、カワリヌマエビは外来種であるが、実際は在来種のギンヤンマなどのヤゴが餌として食べることを知り、池の中の生態系における食物連鎖について深く考えることができた。
 飼育方法を学んだあと、保護した生き物の一部を学校に持ち帰って飼育を継続した。希望する児童は嬉しそうに家庭にも持ち帰った。



関連教科:総合的な学習の時間10時間、理科9時間、社会4時間、学校行事4時間、国語2時間、図画工作3時間

学習活動の結果

写生会～荒川の木々～
 【図画工作】

新緑の荒川で見られる木々や、水門や川岸の景色などを見て、自分のお気に入りの場所を見つけてクレパスと絵の具で絵を描いた。
 赤水門の付近から歩いて行ける島では、時折野鳥のさえずりが聞こえ、樹木の枝や葉が重なる様子や、木の皮のゴツゴツした様子について友達と意見を交わしたり手で触れたりしながら注意深く観察し、一人ひとり荒川への思いを込めて丁寧に描くことができた。



荒川フィールド学習
 るるぶ岩淵～荒川編①～
 【総合的な学習の時間】

初夏の水辺に生えている植物や、そういった植物と共生している生き物について学習した。水辺の植物がどうしてこの土地に生えているのかを学び、自然のつながりについて考えることができた。また、植物の汁を使って絵を描いたり、持ち帰った草花をしおりにししたりして作品に残す活動も行った。
 日本生態系協会と北区水辺の会の方の協力を得ながら、水辺を守るための努力についても知ることができ、自分たちにも何かできることがないかという視点をもつことができた。

わたしたちの北区
 【社会科】

社会科見学では、荒川と隅田川を運行する水上バスに乗って沿岸の土地の様子や自然の様子を見学し、社会科での学習で得た知識を広げ、理解を深めることができた。岩淵緊急船着き場には、緊急時に災害に備える水上バスが運行することを知り、荒川が人々の生活を支えていることについても学び、新たな見方を広げることができた。



こん虫のかんさつ
 【理科】

昆虫のからだのつくりについての学習後、北区子ども水辺で虫とりをし、実際に初夏に見られる様々な昆虫の体を観察することができた。また、昆虫が好む環境や、同種の中にも個体差があることなどについても学び、昆虫への親しみの気持ちをさらに深めている様子が見られた。



こん虫のかんさつ
 【理科】

秋の昆虫について、すみかや特徴を荒川の水辺で実際に学習した。虫とりを行い、荒川の水辺に実際に生息する昆虫のすみかや特徴を観察することができた。また、アモア知水資料館で水辺の水生昆虫についても学習した。「ハイロゲンゴロウ」「コウイムシ」などの展示を見ながら日本生態系協会の方の詳しい説明を聞くことができた。学校に戻ってから、昆虫の生息場所や特徴について理科のノートにまとめ、理科の学びを深めることができた。



冬のくらし
 【国語】

国語の季節を感じる言葉を集めたり文章を作ったりする学習と関連させて、冬の荒川の水辺での思い出や荒川の水辺に対する思いを5・7・5で俳句に表現し、友達と鑑賞し合った。年間を通して生き物にフォーカスしてきたが、季節によってくらす生き物や生き物の姿が変化することに気づき、より荒川に親しみの気持ちが深まったように見受けられた。



3.得られた成果

3学年は、総合的な学習の時間において荒川フィールド学習を「るるぶ岩淵～荒川編～」として年間を通して扱うとともに理科や社会科といった教科の学習とも関連させてきた。そのため、荒川が地域の観光資源であったり、生物にとつての貴重な生息場所であったり、地域に暮らす人々にとって安らぎを与える場であったりということを座学と体験を通して実感することができた。
 また、社会科見学では荒川流域の特徴的な地形やそれに伴う暮らしや交通の広がりを船上から見学し、日頃は一地点として見ている荒川の連続性を目にし、荒川の流れるとともにまちや人々の生活もつながっていることに気が付くことができた。総合的な学習の時間では、岩淵のまちのよさを「自然」「レジャー」「交通」「グルメ」「歴史」の視点から探求してきたが、岩淵のまちのよさを代表するもの一つとして「荒川の自然環境」の素晴らしさを再確認し、自分たちが荒川について誰かに知らせたいという強い思いをもって学習を継続することができたと感じている。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

3学年の学習は地域や身近な生物に関する学習が多く、荒川での学習は教室で得た知識を実体験として再認識できたり、逆に荒川での体験が教室での学習の知識を支えたりすることを児童の様子から確かめることができた。本校の場合は、荒川からの距離も近く、幼少期から荒川が身近な娯楽の場となっていることも児童が親しみを感じて学習に向かえることに繋がっていると感じている。本校は毎年、日本生態系協会や北区水辺の会の方との継続的なつながりがあり、荒川を活用した指導アイデアや支援をいただけることも荒川を教材として活用する上でのメリットとなっている。総合的な学習の時間では、北区水辺の会の方が定期的に荒川の河川敷をきれいにしたり生態系を守るための活動をしたりしていることも聞き、これからは自分たちも荒川を守っていきたいという思いを抱くことにつながった。そういった思いが、今後も地域や地域の暮らしを大切にしたいという思いにつながっていくように感じている。

河川教育 学習活動報告書【複数学年4年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習	学校名	北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009
---------	-----------	-----	----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

荒川 クリーン大作戦 I

荒川 クリーン大作戦 II

荒川 クリーン大作戦 III

・荒川の自然環境を未来につなぐために、課題解決すべきことを考えたり、図書資料やインタビューなどから情報を集め、整理・分析したり関連付けたりしながら解決に向けて考えた。
 ・現在の荒川の環境と保全しようと活動している人々の思いや願いから課題を設定し、自分の意思で探究的な課題に取り組んだ。

・荒川の環境保全のためにできることをすすんで調べ、友達と意見や考えを共有しながら協力して課題解決のための計画をした。
 ・自分たちが決めた課題に対して、実際にフィールドワークやインタビューをして、情報を収集し比較したり関連付けたりしながら、具体的な解決方法について考え、まとめた。

・荒川のすばらしさが未来へと継続するために、荒川が抱える環境問題や今できることなどを効果的な方法で表現し、異学年の児童や自分の家族、地域の人々に向けて伝えた。
 ・未来の世代に持続可能な環境を引き継ぐために、校内や地域の方々に意欲的に発信した。

関連教科:総合学習 15時間、図工 3時間

関連教科:総合学習 15時間、学校行事 2時間、社会 2時間

関連教科:総合学習 15時間

学習活動の結果

荒川を探ろう
 【総合的な学習の時間】
 ・荒川のおよところや課題のあるところを探りに荒川を探索しに行きました。
 ・荒川のイメージをウェビングマップに表し、環境問題、自然の豊かさなど様々な視点で荒川を捉えることができた。



旧赤水門を描こう
 【図画工作】
 ・荒川を代表する旧赤水門を風景と一緒に描いた。
 ・写生会後は、荒川の河川に生息している植物の観察をした。(シロツメクサ、アカツメクサ、カラスノエンドウなど)
 ・草花を使って、遊んだり、絵の中に取り入れたりした。
 ・写生会後、教室前に絵を飾って鑑賞した。



水辺の会の方々にインタビューしよう
 【総合的な学習の時間】
 ・水辺の会の方々の活動の大きさや活動に対する思いを予想した。
 ・実際に水辺の方を招き、どんな思いや願いをもって活動に取り組んでいるのかインタビューをした。
 ・きれいな荒川の環境を目指すために、楽しみながら活動していることが分かった。
 ・自分たちも水辺の会の活動に協力したら、荒川の環境を守る次の担い手として引き継ぐことができると実感することができた。



第1回 荒川クリーン大作戦
 【総合的な学習の時間】
 ・荒川のごみ問題をかいつくすためにできることを考え、ごみ拾い活動をする。
 ・4袋のごみを収集することができ、達成感を感じることができた。
 ・2週間に1回水辺の会の方々がごみ収集活動をしているが、まだこれだけのごみがあることに驚いたとともに人手の足りなさを実感した。



荒川～東京湾までの見学
 【学校行事・社会】
 ・海までの道のりを水上バスに乗って体験することができた。
 ・荒川にごみが浮かんでいる所を見たり、ごみを回収する船が通っているのを見ることができた。
 ・実際に川の水質を見たり、匂いを感じたりすることで、自分たちの生活排水を改めなくてはならないと実感することができた。



荒川 夏の環境整備
 【総合的な学習の時間】
 ・荒川には、上流から下流にかけて様々な種類の魚類・甲殻類が生息している。その生態系を支える豊富な微生物が生息しているのかを調べた。
 ・荒川の水を採取し、顕微鏡で観察した。ケンジシコやセンチュウやゾウリムシなどを発見することができた。



荒川クリーン大作戦の活動を考えよう
 【総合的な学習の時間】
 ・ゴミが放置されている荒川の環境を改善するためにできることは何か考えた。
 ・座標軸を活用し、自分たちにできることを考え、グループで話し合い、ホワイトボードにまとめた。



かいぼり体験
 【総合的な学習の時間】
 荒川の大池の水質環境を改善するために、水を抜き、池の底を空気にさらして微生物による分解を促進することで、水質を浄化する活動を行った。荒川に一生懸命に水を掻き出すなど、水質環境改善に貢献する活動に参加することができた。



荒川クリーン大作戦を発信しよう
 【総合的な学習の時間】
 ・荒川を大切に思える人一人でも増やすための活動を考え、発信する。
 <広める>
 看板やポスターを作成し、アモアに掲示してもらい、荒川を訪れるより多くの人に注意喚起する。
 <発信する>
 保護者とともに荒川の清掃活動を行う。



3.得られた成果
 1～3年生では、荒川の自然の素晴らしさに親しむ学習を行っている。荒川よさを存分に知っているからこそ、その自然の豊かさを守るためにゴミが放置されている現状が子供達にとって問題視すべきことであると明確になり、解決すべき課題となった。きれいに整備されている荒川を支えている人々との交流を通して、その苦労や取り組みを知り、一緒に活動できたのはよい経験になった。これからの荒川を守るために、自分たちにできることは何かを考えることで、支えてくれる人々の苦労にも気付き、それを肌で感じる事ができた。また、水辺の会の方々にインタビューをして、ゴミ拾いの活動は苦ではなく、楽しみながら行っていることに感嘆し、自分たちもそのような気持ちで頑張ろうという意欲につながった。事前学習で予想していたよりも、荒川の水辺をきれいに整備するには計画を立ててやっていく必要があることも分かった。学習を進める中で、地域の人にも荒川の水辺の現状を知ってもらう機会をどう作っていくかなど、自分たちがこれから考えなければならないことがたくさんあることにも気付き、驚きを隠せない様子が見られた。学校だけでは学べないことを荒川フィールド学習ではたくさん学ぶことができた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果
 4年生は、地域の一部である荒川を自然と触れ合える場所という認識から、荒川の自然環境を保全することに意識が向くようになった。低学年で親しんできた荒川を、今度は支えてくれる人々に目を向けられるようになってきた。それに伴い、大好きな荒川の自然を守るためにゴミ拾い活動やポスター作りをして、実際に発信しようとする意識が向上した。また、連携してくれる関係諸機関と自分で連絡を取ったり、実際にゴミ拾い活動の計画をしたりと、自分たちが実践することでよくしているという気持ちが高まり、実践につながった。この経験を通して高学年では自分の考えを様々な形でさらに多くの人へ発信する学習活動につながっていくと考える。

河川教育 学習活動報告書【複数学年5年生】

1.助成事業名	荒川フィールド学習	学校名	北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009
---------	-----------	-----	----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

写生会

○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持バランスについて考えるとともに、体験をもとに自分の思いを表現した。

関連教科: 図画工作 4時間

写生会
【図画工作】
・じっくりと時間をとり荒川の土手からの風景を観察し、描いた。
・感覚を鋭敏にして、いつもとは違う気付きを得て、荒川の自然に目を向け、親しむことができた。



単元名: 荒川プロジェクト～自分と家族の命を守ろう～

○荒川が氾濫した時を想定して普段からどのような備えが必要なのか、自然と人との関わりを考え、防災・減災について考えた。荒川の近くに住んでいることから課題を設定し、今の自分にできることを考え、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究し、自分の命、周りの命を守るためにどのようなことが必要なのか荒川が氾濫した時の危機感を感じさせながら実生活に基づき問題の解決に取り組んだ。

関連教科: 総合的な学習の時間 30時間

荒川プロジェクト
【総合的な学習の時間】
・排水ポンプ車についての説明を聞いたり、照明車に試乗し操作をしたり、災害対策室に行き、災害が想定された際の緊急時の対応について知ることが出来た。



荒川プロジェクト
【総合的な学習の時間】
・荒川のミニ模型を使って、氾濫しないための工夫、赤門の歴史、荒川の構造について学習し、氾濫しないための工夫を知ることができた。



荒川プロジェクト
【総合的な学習の時間】
・荒川が氾濫したと仮定し、起こりうる影響の動画を見たり、マイトimelineを作ったりし、各個人の適切な避難方法について確認した。さらに、グループに分かれ、命を守るための方法をスライドにまとめ、学級で発表し、情報を共有することができた。



単元名: わたしたちの生活と環境
流れる水の働き

○災害が発生する仕組みや地形の特色等に注目して、国や都道府県が防災や減災の考えのもと、対策を進めていることを理解することができた。
○大雨により、どのような災害が起きるかを考え、災害に対しての備えの重要性を再確認することが出来た。

関連教科: 理科・社会 18時間

わたしたちのくらしと災害
【理科】
・日本各地の過去の大きな風水害を扱った動画を見て、大雨が降った時の影響について知ることが出来た。



自然災害を防ぐ
【社会】
・地震災害、火山災害、雪害等、各災害が起きる仕組み、過去の被害、国や家庭での備えについてノートにまとめ、各災害について調べることができた。



3.得られた成果

- ・自分たちが体験したことを追究する活動の中で気付いたり発見したりしたことの中から、荒川が氾濫した時に命を守るためにどのようにしたら良いか、自分たちなりに情報を集めてまとめることができた。
- ・学校の近くにある堤防や水門が果たす社会的な役割を考え、その効果について理解する学習活動を行うことができた。
- ・自然環境と人間社会の調和やバランスについてイメージをふくらませ、自身の思いを表現する活動を行うことができた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- ・総合的な学習の時間に河川学習を通して身近な地域で環境問題と向き合い、地域に目を向け、地域をより知ろうとする意欲が高まった。
- ・私たちの環境との関わり方やその在り方について、多様な視点から物事を捉える目を養うことができた。
- ・荒川知水資料館を見学して荒川の歴史や水門の役割を知って、防災について考えようとする意識を高めることができた。さらに、グループで決めたテーマについて情報を集め、その知識を得るとともに命を守るための取り組み、備えについて考えようとする意識を高めることができた。
- ・知水資料館の方から話をしてもらったり、グループで分かれ、防災について考えたりしたこと、自分の命、家族の命を守ろうという気持ちを高めることができた。

学習活動の結果

1.助成事業名	荒川フィールド学習	学校名	北区立岩淵小学校	助成番号	2024-7214-009
---------	-----------	-----	----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

写生会

○自分たちが住む街の身近な自然に触れ、人間生活の構築と自然環境の維持バランスについて考えるとともに、体験をもとに自分の思いを表現した。

関連教科:総合的な学習の時間(4時間)

写生会【図画工作】

- ・じっくりと時間をとり荒川の土手からの風景を観察し、描いた。
- ・感覚を鋭敏にして、いつもとは違う気付きを得て、荒川の自然に目を向け、親しむことができた。



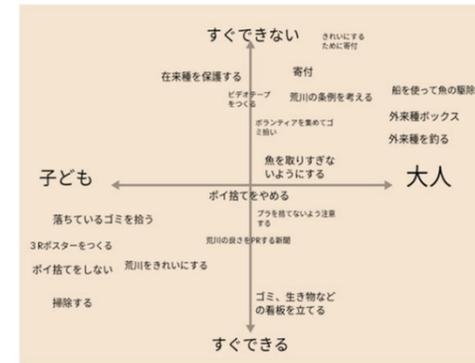
荒川未来プロジェクト

○自分たちの住む地域と荒川の関係について調べるため、今までの学習を元にし、課題は何か考え出した。また、自分たちには出来ることは何か考え、提案した。

関連教科:総合的な学習の時間(20時間)

荒川未来プロジェクト【総合的な学習の時間】

- ・自分たちのまちにある『荒川』について、再度自分たちに出来ることは何か考え、みんなで意見を出し合っていた。
- ・自分たちが出来ること、大人の手を借りて出来ることを区別し、どのように地域に提案したらいいか考える姿が見られた。
- ・アモアの見学をしに行き、特別展示を見て今までの学習と関連付けながら考えを深める様子が窺えた。



学習活動の結果

3.得られた成果

昨年度は、防災について学んだので、その知識を生かして自分たちや地域の方々と協力してできることはないか考えられるようになった。また、視野が広くなり、地域一丸となつてできることはないか提案しようとする意欲も高まった。6年間で培ってきたことを再度経験し、そこから得られる成果や課題を再度検討しようとする姿が見られるようになった。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

6学年になり、植物や生き物といった自然と関わることは減ったものの、今までの経験を振り返りながら自分たちの地域にある荒川をよりよいものにし、後世にも自然豊かで安全に配慮された荒川を残していこうとする気持ちが育まれた。また、船上学習がとても印象に残っているため、荒川と関係の深い岩淵小学校で、今後もその学習を残していきたいという願いがあった。また、荒川未来プロジェクトでは、自分たちだけでできることや地域の力を借りて出来ることを考え、北区を代表する川を学習や地域活性化に生かせないか考えるよい機会になった。

生活科学習指導案

日時 令和6年11月6日(水) 第5校時
13:35~14:20
対象 第1学年2組 18名
学校名 北区立岩淵小学校
授業者 主任教諭 須賀 やよい
会場 1年2組教室

令和6年度 研究主題

よりよい生活を創り出す子どもの育成

1 単元名 きせつとなかよし あき

2 単元の目標

- ① 学校周辺や「北区子どもの水辺」で見られる秋の自然を、目・耳・鼻・手触りなどの諸感覚をはたらかせて観察したり、採集した自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や春・夏との違いを見つけたり、みんなで使う場所に親しみをもち、きまりを守って大切に使用したりできるようにする。
- ② 身近な自然や生活の様子の変化、自然のおもしろさや不思議さに気付き、秋の自然物を使った遊びを工夫しながら、自分の生活をみんなと一緒に楽しく創り出そうとすることができるようにする。

3 単元の評価規準〔内容(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び〕

		知識及び技能の基礎 (身近な環境や自分自身への気付き)	思考力、判断力、表現力等の基礎 (活動や体験についての思考・表現)	学びに向かう力、人間性等 (生活への関心・意欲・態度)
単元の評価規準		○秋の自然の中で遊んだり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、季節によって自然や生活の様子が変わること、自然の遊びのおもしろさや、みんなで使う場所のルールやマナーを守って遊ぶことの大切さに気付いている。	○秋の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	○秋の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、季節を生活に取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
小単元における評価規準	小単元1 あきをみつけにいこう	①秋の野原や公園の様子が、春や夏と比べて変わっていることに気付いている。(行動観察・発言) ②秋の自然物の特徴や不思議さに気付いている。(行動観察・観察カード)	①風や光、動植物などを春や夏と比較しながら観察している。(行動観察・発言) ③木の実や葉の特徴や不思議さを伝えたり表現したりしている。(行動観察・観察カード)	①秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。 (行動観察・発言) ②秋の自然物に関心をもち、調べたり、伝えたりしようとしている。 (行動観察・発言)
	小単元2 みつけたあきであそぼう	③秋の自然物の特徴や、自然を使って遊びを創り出すおもしろさに気付いている。(行動観察・観察カード) ④遊びのルールや約束を工夫すると楽しく遊べることや、友達のおもちゃには、自分のものと違うよさがあることに気付いている。 (行動観察・発言)	②秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。(行動観察・発言) ④遊びに工夫を加えたり、友達が作った遊びと比べたりしながら、繰り返し遊んでいる。 (行動観察・発言)	③秋の身近な自然を使って遊ぶことに関心をもち、どんな遊びがしたいかを意欲的に考えている。 (行動観察・発言)

小単元3 みんなであきをたのしもう	⑤自分や友達が作った遊びのよさに気付いている。 (行動観察・発言) ⑤招待した人に楽しんでもらえたことがわかり、みんなで秋を楽しむことのよさに気付いている。 (行動観察・発言・カード)	⑤招待する相手のことを考えながら遊びの計画を立てたり準備をしたりしようとしている。(行動観察・発言) ⑥自分が考えた遊びのやり方を伝えたり、楽しんでもらう方法を考えながら関わったりしている。(行動観察・発言)	④自分が考えた遊びの楽しさを伝えたいという思いをもち、すすんで交流しようとしている。(行動観察・発言) ⑤秋の身近な自然で遊びを創り出す喜びや、みんなで遊ぶ楽しさを実感し、毎日の生活を豊かに楽しくしようとしている。 (行動観察・発言・カード)
----------------------	---	---	---

4 指導観

(1) 単元観

大単元を学習するにあたり、『小学校学習指導要領解説一『生活編』』で示されている以下の内容に着目する。

<p>〈小学校学習指導要領解説 生活編 (5) 季節の変化と生活〉 (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。</p>
<p>〈小学校学習指導要領解説 生活編 (6) 自然〉 (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら創り出そうとする。</p>

本単元では、秋の自然と触れ合い、主体的に関わることを通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、秋の自然物を使ってできる遊びを自分なりに考えて、より楽しい遊びを創り出そうとしたりすることができるようになることをねらいとしている。小単元1では、「きせつとなかよし はる なつ」で観察したところを再び訪ね、五感を使って季節による自然の様子の変化を見付けたり、木の実や落ち葉などを採集したりする活動を行う。また、「北区子どもの水辺」での活動などから、日本生態系協会や水辺の会の方のように、地域の自然環境を守る活動をしている人々の存在にも気づき、自然を大切にしたり、みんなで使う場所の決まりを守ろうとしたりする心情も育みたい。

小単元2では、採集してきた木の実や落ち葉と存分に関わり、秋の自然物を使ってやってみたいことを考えたり、実際に作ってみたりする活動を行う。触れ合ったり、遊んだりする時間を十分に確保することで、豊かな秋の自然を存分に体感させたい。

さらに、小単元3では、これまでは教えてもらったりお世話してもらったりすることが多かった1年生が、自分たちで考えた遊びにお客様を招待する活動を取り入れる。相手に楽しんでもらう喜びや、活動で得た気づきを生かして遊びをさらに発展させたり、創り出したりする喜びを味わわせ、みんなで遊ぶ楽しさや自己の成長にも気付かせたい。

なお、本授業『あきのおたから』で あそびができるか かんがえよう』での評価については、〔(6) 自然や物を使った遊び〕に基づいて評価規準を設定する。

(2) 児童観

本学級の児童は、校庭で見つけたダンゴ虫を飼ってみたり、校内の畑やビオトープを散歩しながら虫や植物の観察をしたりするなど、自然との関わりを積極的に楽しむ児童が多い。また、5月に行ったアンケートの結果からは、生き物や栽培活動など、自然と関わる活動を楽しいと答えた児童が9割となり、本単元の活動にも興味関心をもって取り組むことができると思われる。

「きせつとなかよし はる なつ」の学習では、「北区子どもの水辺」でシロツメクサの指輪を作ったり、大きく育ったひまわりと自分達の背や顔の大きさを比べたりして、季節の植物と関わるおもしろさに気付いている。

また、雨の日に校内を散歩して、空気の匂いや雨の音、濡れた地面の足元に映る自分達の姿など、その季節ならではの発見を純粋に楽しむ姿が多く見られた。

しかし、季節による植物の変化やその特徴に気付いたり、植物を使って遊びを工夫したりしながら、自然の面

白さや不思議さに気付くまでには至っていない。また、発見した気付きや楽しさを友達と共有し、お互いの考えを比べたり自分の考えを深めたりすることはまだ十分ではない。

この単元で、友達が見つけた秋と自分が見つけた秋を共有しながら季節の変化に気付き、身の回りの秋の自然物の特徴を生かした遊びを創り出していく力を養っていきたい。

(3) 教材観

子供たちは、前単元「きせつとなかよし はる なつ」の学習で、学校の周りやビオトープで見られる植物や生き物の様子を観察したり、「北区子どもの水辺」に出かけ、日本生態系協会の方や水辺の会の方から、春の草花遊びやカニの生態について教えていただいたりしてきた。これまでの学習では、目・耳・鼻・手触りなどの視点を提示し、五感をはたらかせて気付いたことや感じたことを観察カードに書き、伝え合う活動を繰り返してきた。

秋の自然物を使った遊びは、幼稚園や保育園でも経験してきている児童も多いと考えられるが、秋の色やにおい、手触りを感じて、春や夏との違いに気付いたり、秋の自然物でできることを考えたりして、秋の生活を楽しいものにできるとよい。2年生に教えてもらって作った「わくわくバッグ」を持って学校周辺や「北区子どもの水辺」に出かけて木の実や落ち葉を収集し、図工の時間に作った「おたから Box」に入れて教室で保管することで、秋をより身近に感じてほしいと考えている。

これまでの生活科の学習では、どの単元でも2年生にリードしてもらい、「わくわく ときどき しょうがっこう」で校内を隅々まで案内してもらったり、「きれいにさいてね わたしのはな」で一人一鉢育てているアサガオの世話を詳しく教えてもらったりして交流を深めてきた。「北区子どもの水辺」への校外学習にも、毎回一緒に出かけ、先導して歩いてもらっている。「わくわく Box」に集めた秋の自然物で工夫を凝らして遊ぶものを作り、自分だけの宝物から、友達との遊び、誰かを招待する遊びへと活動を広げることで、自分を取り巻く人との関わりに気付き、お世話になった人への感謝の気持ちや、自然に恵まれた地域環境に愛着をもち、大切にしていこうとする心情を育んでいきたい。

5 研究主題「よりよい生活を創り出す子供の育成」に迫る手立て

低学年分科会の目指す児童像	主題に迫る手立て
<p>A 知・技 水辺の会の人との関わりを通して、季節の草花や生き物の変化に気付いたり面白さを見つけたりする児童。 水辺の安全面に気を付けて活動する児童。</p>	<p>○季節による自然の変化に気付かせる手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生と合同での「北区子どもの水辺」への校外学習 年間を通じて、2年生と一緒に校外学習に出かけることで、季節によって見られる草花や生き物の様子に違いがあることや、自然の様子の変化に気付かせる。校外学習だけでなく普段の授業でも、2年生とのペア学習の時間を作り、気軽に話を聞いたり、質問したりできるようにする。 ・日本生態系協会との連携 「北区子どもの水辺」への校外学習の際には、その都度「日本生態系協会」の方と事前に打ち合わせを行い、生活科の授業のねらいや体験させたい活動を明確に伝えることで、子供たちの学びがより深まるように教材を準備したり、環境を構成したりしていただいている。 ・子どもの気付きを広げる教室掲示 活動の様子を撮影した写真や、そのときの子供たちの気付きを教室に掲示し、前回の様子との違いを確かめられるようにしている。
<p>思・判・表 子どもの水辺の季節の草花や生き物の特徴を見つけ、その特徴を生かして工夫して遊んだり作ったりする児童。</p>	<p>○個の気付きを全体に広げる手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びのコーナーを作り、周囲を楽しませる活動を取り入れる。 自分一人の遊びから友達と一緒に遊べるように広げていくことで、遊びが発展し、その場に応じた遊びの順序やルールができてくると考える。それらを掲示して視覚的に表したり、新しい友達を誘ったりして、自分が作った遊びで招待した人に楽しんでもらう活動を行う。友達と交流することで、より遊びが楽しくなったり、秋の自然へ知識や親しみを深めたりすることを狙いたい。 ・「ふりかえりカード」の活用 活動の一つ一つを「ふりかえりカード」に書き、良かったところに気付いたり、改善点を見出したりできるようにし、遊びを深めていくようにする。カードは、日付や場所を書き込むようにし、季節による自然の変化の様子や不思議さにも気付けるようにする。

<p>C 主体 秋の植物や生き物に親しみをもち、自分の生活と結びつけて関わろうとする児童。</p>	<p>○秋への愛着を深める手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくバッグ 秋の「北区子どもの水辺」への校外学習に向けて、昨年出かけた2年生にペアで教えてもらいながら、自然物を採集するための「わくわくバッグ」を作る。このバッグは、学校での活動だけでなく、自由に持ち帰り、家庭でも秋を見付ける活動ができるようにする。 ・図工との合科授業で作る「おたから Box」 図工の時間に「おたから Box」を作り、空き箱を思い思いに飾り付けて、自分だけの大切な宝箱として愛着をもたせる。「わくわくバッグ」に入れて持ち帰った自然物を「おたから Box」に入れて教室で保管し、いつでも手にとって触れたり、友達のコレクションと比べたりできるようにする。日常的に秋の遊びが話題に上ったり、ひらめきが増したりすることによって、秋の自然への関心がより深まっていくようにする。
--	---

6 単元の指導計画と評価計画（16時間扱い）

	○ねらい ●学習活動	◇支援 ・留意点 □評価規準
<p>小 単 元 1 あ き を み つ け に い こ う (7)</p>	<p>①生活の中で気付いた秋を発表したり、荒川「子どもの水辺」の秋の様子を想像したりして、活動への意欲をもつ。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「秋」と聞いて思い浮かぶものを思考ツールに書き出したり、やってみたい遊びを話し合ったりする。 <p>②秋の自然を採集するための「わくわくバッグ」を作る。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年、秋みつけを経験している2年生に様子を聞きながら、秋の自然物を採集するときを持って行く「わくわくバッグ」の作り方を教えてもらう。 <p>③春、夏に訪ねたところをもう一度歩き、季節の変化に気付いたり、特徴を見付けたりする。(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校の周り、近くの公園、荒川「子どもの水辺」に秋みつけに出かけ、秋の自然物を採集したり、秋の草花遊びを楽しんだりする。 ●目・耳・鼻・手触りなど、感覚ごとに色分けしたカードに、見付けたことを書く。 ●図工との合科授業で、収集した秋の自然物を保管できる「わくわく Box」を一人一箱、制作する。(図画工作科2時間) <p>④採集した秋の自然物を観察したり、気付いたことをカードに書いて伝え合ったりする。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目、耳、鼻、手触りなど感覚ごとに気付きを書いたカードを伝え合ったり、種類ごとに整理したりする。 	<p>◇支援 ・留意点 □評価規準</p> <p>□秋の野原や公園の様子が、春や夏と比べて変わっていることに気付いている。【知・技】①(行動観察・観察カード)</p> <p>□風や光、動植物などを春や夏と比較しながら観察している。【思・判・表】①(行動観察・観察カード)</p> <p>「きせつとなかよし はる なつ」の学習活動の写真や気付きを掲示し、秋と比較しやすいようにする。</p> <p>□秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。</p> <p>【主体】①(行動観察・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくバッグ」の材料は、給食の牛乳パックを活用し、廃材を活用して自分だけのオリジナルバッグを作る良さに気付かせ、小単元2のおもちやづくりに生かせるようにする。 <p>□秋の自然の特徴や不思議さに気付いている。</p> <p>【知・技】②(行動観察・観察カード)</p> <p>□木の実や葉の特徴や不思議さを伝えたり表現したりしている。【思・判・表】②(行動観察・観察カード)</p> <p>◇五感をはたらかせて観察しやすいように、目・耳・鼻・手触りなど、感覚ごとに色分けしたカードを準備しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本生態系協会の方に授業のねらいを伝え、秋の自然物の採集に適した場所や当日の活動内容について事前に打ち合わせをしておく。 <p>□秋の自然物に関心をもち、調べたり、伝えたりしようとしている。【主体】②(行動観察・発言)</p>

<p>小 単 元 2 み つ け た あ き で あ そ ぼ う (4)</p>	<p>⑤見つけた秋の自然物の特徴を生かした遊びに気付き、創り出そうとしている。(1時間)(※本時8/16時間目) ●見つけた秋の自然物でどんな遊びができるか考え、試し遊びをする。</p> <p>⑥採集した木の実や葉っぱを使って遊んだり、おもちゃを作ったりして遊びを楽しむ。(3時間) ●自分が作りたいおもちゃを工夫して作ったり、改良したりしながら遊ぶ。 ●作ったもので友達と一緒に遊んだり、遊び方を工夫して楽しんだりする。 ●活動を振り返り、楽しかったことや気付いたことを絵や文で表現し、友達と伝え合う。</p>	<p>□秋の身近な自然を使って遊ぶことに関心をもち、どんな遊びがしたいかを意欲的に考えている。 【主体】③(行動観察・発言) ◇「おたから Box」を手元に置いて、秋の自然物に触れながら遊びを考えられるようにする。 ◇予め決めておいた3人のグループで話し合っ活動するようにし、支援の必要な児童も友達と一緒に遊びを考えられるようにする。</p> <p>□秋の自然物の特徴や、自然を使って遊びを創り出すおもしろさに気付いている。【知・技】③(行動観察・発言) □秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。 【思・判・表】③(行動観察・発言) □遊びのルールや約束を工夫すると楽しく遊べることや、友達のおもちゃには、自分のものと違うよさがあることに気付いている。【知・技】④(行動観察・発言) □遊びに工夫を加えたり、友達が作った遊びと比べたりしながら、繰り返し遊んでいる。 【思・判・表】④(行動観察・発言) ◇区立図書館や学校司書と連携して、秋の自然物やそれらを使ってできる遊びに関する本を集めておく。 ◇家庭と連携して、遊びに使う物の準備の協力を依頼しておく。 ◇教室の中に「材料コーナー」を設け、学校で準備できる道具や材料、採集した自然物などを整理して並べ、必要なときに、いつでも使えるようにしておく。</p>
<p>小 単 元 3 み ん な で あ き を た の し も う (5)</p>	<p>⑥お世話になった人を招待して、秋の遊びをみんなで楽しむ計画を立てる。(1時間) ●自分たちが考えた遊びで、もっと多くの人に楽しんでもらうためにはどうしたらよいか話し合う。</p> <p>⑧招待した人に楽しんでもらえるように必要なものを作ったり、準備をしたりする。(2時間) ●遊びのコーナーの役割分担をしたり、招待状を書いたりする。</p> <p>⑨遊びのコーナーに上級生を招待して、遊びの紹介をしながら一緒に楽しく遊ぶ。(1時間)</p> <p>⑩これまでの活動全体を振り返り、良かったことや気付いたことを伝え合う。(1時間) ●自分が作った遊びや気づきを書いたカードを読み返し、良かったことや、できるようになったことを見付ける。</p>	<p>□自分や友達が作った遊びのよさに気付いている。 【知・技】⑤(行動観察・発言) □招待する相手のことを考えながら遊びの計画を立てたり準備をしたりしようとしている。 【思・判・表】⑤(行動観察・発言) ・全体的な遊びのデザインやコーナーの運営、進行をできる限り子供たちに任せ、必要に応じて支援を行うようにする。</p> <p>□自分が考えた遊び方を伝えたり、楽しんでもらう方法を考えながら関わったりしている。 【思・判・表】⑥(行動観察・発言)</p> <p>□自分が考えた遊びの楽しさを伝えたいという思いをもち、すすんで交流しようとしている。 【主体】④(行動観察・発言) ・一人一人の良さを認めたり、伝えたりしながら、達成感や自信をもてるようにする。 ・安全に活動できているか、危険なことはないか見守り、けがのないように配慮する。</p> <p>□招待した人に楽しんでもらえたことがわかり、みんなで秋を楽しむことのよさに気付いている。 【知・技】⑥(行動観察・発言・カード) □秋の身近な自然で遊びを創り出す喜びや、みんなで遊ぶ楽しさを実感し、毎日の生活を豊かに楽しくしようとしている。 【主体】⑤(行動観察・発言・振り返りカード)</p>

7 本時（全 16 時間中の第 8 時間目）

（1）本時の目標 見つけた秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びができるかを考えながら試すことができる。

（2）本時の展開

時間	●学習活動	◆支援 □評価規準 ・留意点
導入 展開 (35分)	<p>●前時までの学習内容を振り返り、見つけた「お宝」で、これからどんな遊びができるかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>「あきのおたから」で どんなあそびができるか かんがえよう。</p> </div> <p>●「秋のお宝」の特徴に気付き、これからどうしていきたいか、お宝を見たり触ったりして考える。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりがこまみたいに回っていておもしろいな。 ・葉っぱをならべたらお面みたいになりそうだな。 <p>●どんな遊びを考えたか、友達と伝え合う。(3人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた遊びと違っておもしろいな。 ・自分が考えた遊びと似ているな。 ・もっとこうするとおもしろそうだね。 ・2人でも一緒に遊べそうだよ。 ・こんなこともできそうだよ。 <p>●それぞれが考えた遊びを、クラス全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりでコマをつくりたいな。 ・おしゃれな洋服を作りたい。 ・コロコロ迷路を作ってみたいな。 ・葉っぱと木の実を使って、人形を作りたい。 	<p>◆支援 □評価規準 ・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の上に、「お宝 Box」を置いておく。 ◆「秋のお宝」をたくさん見つけたことを再度確認して、「お宝」としての価値を再確認させる。 <p>◆集めた木の実や葉を何かに見立てたり、特徴を生かした遊びに気付いたりすることができるように、自分のお宝とじっくり向き合う時間を設ける。</p> <p>◆どんぐりがころころと転がるのを楽しんだり、葉っぱがかさかさ鳴る音に気付いたりすることで、「次はこうしたい！」という意欲を高めさせる。</p> <p>◆活動のイメージがもてない児童には、「このお宝で何がしたいかな？」と声をかけたり、見つけた秋で遊び始めていた児童（どんぐりを転がすなど）の姿を例に挙げたりする。</p> <p>◆3人グループを作り、それぞれが気付いたお宝の特徴や、考えた遊びを共有する時間にさせる。</p> <p>【思】秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。 (行動観察・発言)</p> <p>◆クラス全体の発表で出た意見を黒板に書く。 ・教師が自然物の種類を意識しながら、児童の考えを整理する。</p>
まとめ (10分)	<p>●本時のふりかえりをワークシートに書く。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く作ってみたい。 	<p>◆どんなことを書いたら良いか悩んでいる児童には、自然物の特徴を一緒に考えながら、できそうな遊びに気づくことができるように声かけをする。</p> <p>◆本時で出た意見を黒板でふりかえり、次時への意欲を高めさせる。</p>

(3) 板書計画

はっけんしたい！やってみたい！

⑥ あきのおたからで どんなあそびができるか かんがえよう。

はっけんした おたから

どんぐり

はっぱ

きのみ

えだ

まつ
ぼっくり

やってみたいこと

・どんぐりで・・・

きのみで・・・

・はっぱで・・・

えだで・・・

あきのおたからで、つくってあそぼう！

(4) 授業観察の視点

学習活動の工夫

・自分が集めた自然物と向き合う時間を、個人、グループ、そして全体でじっくり設けることで、秋の自然物の特徴を生かした遊びを考えたり試したりすることにつながっていたか。

教師の働きかけの工夫

・児童の発言を板書しながら種類分けすることで、児童がどんな遊びができるかの考えを広げることができていたか。

総合的な学習の時間学習指導案

日時 令和6年9月11日5校時

13:20～14:05

対象 4年2組 20名

授業者 武田 心平

場所 北区立岩淵小学校4年2組教室

令和6年度 研究主題

よりよい生活を創り出す子供の育成

1 単元名 荒川クリーン大作戦

2 単元の目標

荒川の環境について調べたり、その保全に向けた活動に共同して取り組んだりすることを通して、環境保全に関する具体的な取り組みについて考え、環境を守る活動を続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、荒川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

3 単元の評価規準

	ア・知識及び技能	イ・思考力、判断力、表現力等	ウ・学びに向かう力、人間性等
単元の評価規準	<p>①荒川の環境には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動を続けている人や組織の存在、思いに気付いている。</p> <p>②荒川に生息する生き物や植物を守るために荒川のゴミ拾い運動等を実施している。</p> <p>③荒川の環境と自分たちの生活には関連があることの理解は、川とそこに生息する生き物との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①荒川の環境保全についての課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てている。</p> <p>②荒川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。</p> <p>③荒川の環境を守る活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。</p> <p>④川の環境保全に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。</p>	<p>①ゴミのない荒川の環境を持続させるために、自分自身で設定した課題の価値を理解しようとしている。</p> <p>②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>③自分と川や地域の人々等とのつながりに気づき、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動しようとしている。</p>

小単元における評価規準	小単元1	①フィールドワークを通して荒川に生息する生物にとって、今の環境のよさや課題を理解している。	①荒川の自然環境を未来につなぐために課題解決すべきことを考えたり、図書資料やインタビューなどから情報を集め、整理・分析したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。	①現在の荒川の環境と保全しようとしている人々の思いや願いから課題を設定し、自分の意思で探究的な課題に取り組もうとしている。
	小単元2	②荒川知水資料館の方々や水辺の会の方々との関わりを通して、荒川の自然環境を保全する活動が行われていることを理解している。	②自分たちが決めた課題に対して、実際にフィールドワークやインタビューをして、情報を収集し、比較したり関連付けたりしながら、具体的な解決方法について考え、まとめている。	②荒川の環境保全のためにできることを進んで調べ、友達と意見や考えを共有しながら協力して課題解決をしようとしている。
	小単元3	③荒川の環境問題と自分たちの生活は密接に関わっていることを知り、環境保全の重要性を理解し、これまでの活動と関連付けて説明することができる。	③荒川のすばらしさが未来へと継続するために、荒川が抱える環境問題や今できることなどを効果的な方法で表現し、異学年の児童や自分の家族、地域の人々に向けて伝えている。	③未来の世代に持続可能な環境を引き継ぐために、校内や地域の方々に意欲的に発信しようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、中心的な学習活動を、地域を流れる荒川の環境保全に向けた具体的な活動とした上で、4年生の社会科で学習する上下水道や清掃工場と関連付けて、以下に示す三つの小単元で構成した。また、4年生では、1～3年生までと同様に荒川の魅力のみを発信するのではなく、荒川のごみ問題にも着目させたいと考えた。「きれいになれば、さらに荒川の魅力が高まる」と考え、荒川の環境問題に関する成果・課題を学習し発信させたい。評価場面については、小単元ごとの学習活動や学習場面において、資質・能力を発揮する児童の姿を想定し、次のような意図をもって設定した。

小単元1は、単元の導入において、課題を理解する場面であることから、小単元における評価規準「知識・技能①」の評価規準を設定した。また、川を実際に探検することを通して感じた問いの価値に迫ることが期待できることから、「学びに向かう力・人間性①」の評価規準を設定した。

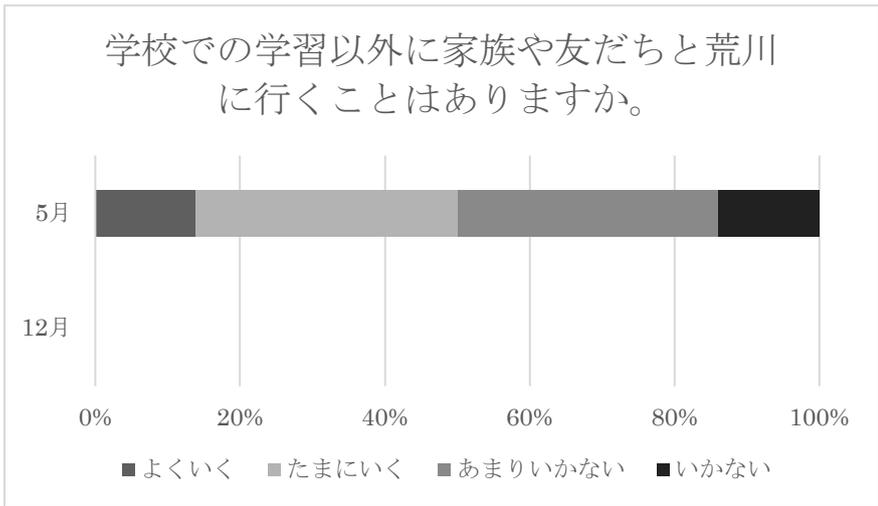
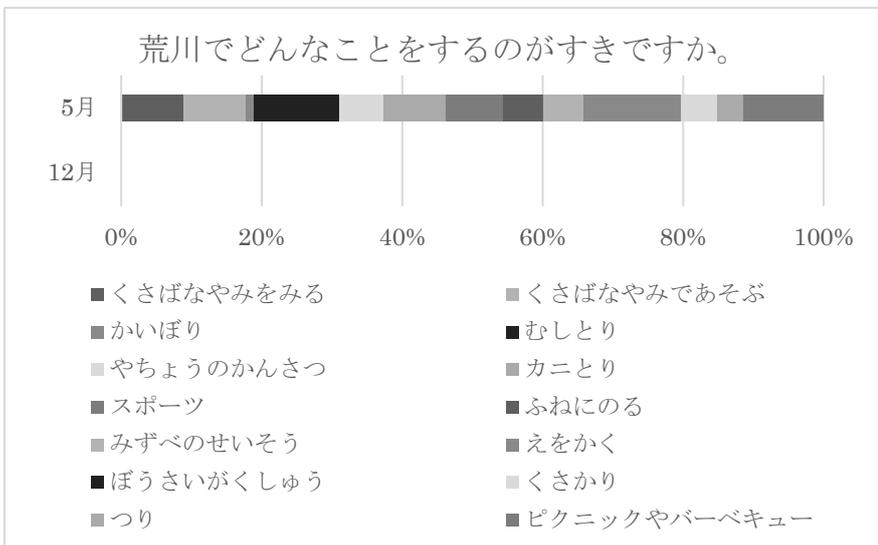
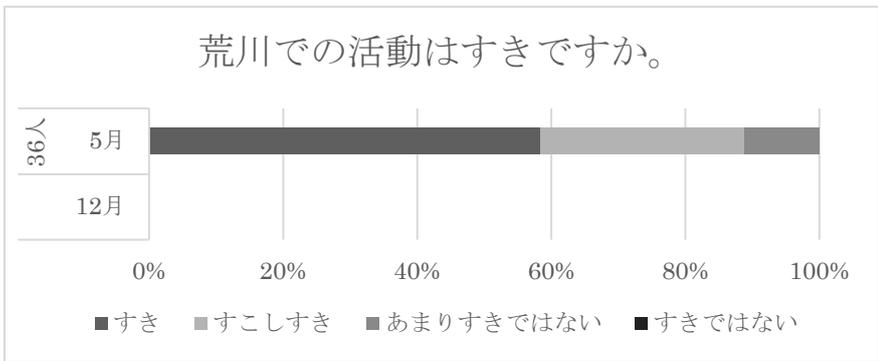
小単元2は、川の環境保全に取り組んでいる人や組織と関わりながら、自らも川の自然を守る活動を行う。ここでは、川の調査や水辺の会の方へのインタビューなどの荒川フィールド学習を繰り返すことで、「未来の荒川の環境を守るために自分たちは何が出来るのか。」と言う課題設定を立てることができると考える。そのため、「知識・技能②」の評価規準を設定した。また、対象に応じて適切に情報収集をしたり、川を守る活動を進めるために根拠を明らかにして具体的な活動を決定したりする児童の姿を見取る適切な評価機会であると考え、「思考・判断・表現②」の評価規準を設定した。さらに、多様な考え方に触れながら具体的な活動を協働的に進めていく態度を評価する機会と捉え、「学びに向かう力・人間性②」の評価規準を設定した。

小単元3は、自分たちの活動を校内や地域に発信するとともに、これからの自分たちの行動について考えようとしていく学習場面である。この場面は、荒川の環境保全に関する活動を振り返ることを通して探究的に学んできたことのよさを理解する児童の姿を見取る適切な評価機会である。そのため、「知識・技能③」の評価規準を設

定した。また、目的に合わせて自分の考えを分かりやすく表現する児童の姿を見取る適切な評価機会であると考え、「思考・判断・表現③」の評価規準、さらに、他者との関わりを意識しながら荒川の未来への関心を持ち続けていこうとする態度を評価する機会と捉え、「学びに向かう力・人間性③」の評価規準を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は1年生から現在まで荒川フィールド学習を通して、荒川の自然や地域の取り組みについて学び、親しんできた。1～3年生までは「カニ取り」や「季節の草花あそび」、「虫取り」といった植物や生き物に親しみを持ち、身近にある豊かな自然と触れ合うことの魅力を経験、発信している。荒川フィールド学習での体験学習を通して、もっと知りたい、調べてみたいという意欲を高めることができると考える。しかし、自分にとって意味や価値のある課題設定をしたり、他者と協同して課題解決を図ろうとしたりすることに関しては、消極的な児童が多い。思考ツールを活用するなどして、自分の考えや思いを明確化させたい。



アンケート結果の考察

荒川での活動について、9割の児童が「好き」「すこし好き」と答えており、荒川での活動に対して興味・関心が強いことがわかる。一方で、「あまり好きではない」と答えた児童の理由として「虫はきれいだが荒川に行くのは好き。」とあげられており、特定のものへの抵抗感はあるが、荒川自体への興味・関心はあることがわかる。また、肯定的な児童の中でも実際に体験できる活動が好きという児童が多く、知識伝達型の関わり方よりもフィールド学習を通じた体験型学習が児童の興味・関心を引きだしていることがわかる。総合的な学習で取り扱っている「ゴミ拾い」についても14名の児童が好きな活動として選んでおり、学習と相まって興味・関心を強くしていることがうかがえる。しかし、学校での活動以外になると否定的な児童が増えている。学校での活動としては荒川への関心はあるが、日頃の実生活になると荒川から遠ざかってしまうことがわかった。学校での学習を実生活においても意識できるような学習内容にすることでより荒川に対する意識とそれらを通じた地域への思いを育てることができると考える。

(3) 教材観

本單元では、地域に流れる荒川を取り扱う。荒川は、昆虫や魚や植物などが多く生息し、児童にとって魅力的な川である。また、小学校近くを流れている川であるため、1 学年の時から荒川フィールド学習に取り組んでいる。そのため、問題解決の過程において川に行き行って繰り返し調査することができ、体験を通じた学びができる。いつも何気なく見ていた身近な川でも、繰り返し現状を調査したり、荒川の環境を守ろうとする水辺の会の方々の思いに触れたりすることで、川に対する見方や考え方が変わっていき、目の前を流れる川が違って見えるようになる。その中で、荒川の環境を守っていこうと自ら考え、行動することも期待できる。

5 研究主題「よりよい生活を創り出す子供の育成」に迫る手立て

中学年分科会	主題に迫る手立て
<p>目指す児童像</p> <p>A 知・技 地域の場所や人との関わりを通して、課題意識をもち、目的をもって調べたり考えをまとめたり、根拠を元に発表したりする児童。</p> <p>B 思・判・表 身近な子どもの水辺の問題について調べたり考えたりしながら、自分にとってよりよい環境づくりを考えたり行動したりしている児童。</p> <p>C 主体 進んでコミュニケーションを図り、目的に向かって協力したり、身近な人や地域のことを考えたりしながら活動しようとする児童。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の会や日本生態系協会の方との交流を深め、定期的に子どもの水辺に出かけて、課題発見や活動計画を立てたりする。 ・子どもの水辺や地域に関する書籍や資料を用意し、児童の主体的な学習を支援する。 ・互いの考えを共有しやすいように、ロイロノートの思考ツール（ウェビングマップ・座標軸）を活用して、水辺の問題について自分たちが解決すべき課題をみつけやすいようにする。 ・子どもの水辺について家庭や地域で話し合う機会を設け、地域の一員として自然を保護したり、動植物を大切にしようとしたりする意識を高める。 ・子どもの水辺について考えたことを文章にまとめたり、話し合ったりする機会を増やし、地域や周りの人にも発信していこうという機運を高める。

6 単元の指導計画と評価計画（35時間扱い）

	○ねらい ●学習活動	◇支援 ・留意点 □評価規準
<p>小單元1 荒川の環境についてさぐる。 (10時間)</p>	<p>①荒川を探検し、荒川の環境についてまとめる。 ●ウェビングマップを使いクラス全体で荒川の環境のよさや問題点について気付きや考えを出し合う。 ②荒川の自然環境の悪化について、原因を学習用PCで調べる。 ③水辺の会や日本生態系協会の方々とともに荒川の清掃活動をするを通して、荒川の自然環境を保全する活動を継続している思いや考えを想像する。</p>	<p>◇支援 ・留意点 □評価規準</p> <p>◇ウェビングマップを用い、気付きや考えを共有しやすくする。</p> <p>① □ア-① 荒川の環境には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動をしている人や組織の存在、思いに気付いている。 <観察・ワークシート></p>

	<p>④水辺の会や日本生態系協会の方々がどんな思いや願いをもって荒川の自然環境を保全しているのか考え、インタビューをする。</p> <p>●今後の学習の見通しを立て、課題を設定する。</p>	<p>□イー① 荒川の環境保全についての課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てている。 <観察・ワークシート></p> <p>◇ゲストティーチャーとして水辺の会の方々を招き、荒川のゴミ拾い活動に対する思いや願いをインタビューする時間を設ける。</p> <p>□イー② 荒川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。 <観察・ワークシート></p> <p>□ウー① ゴミのない荒川の環境を持続させるために、自分自身で設定した課題の価値を理解している。 <観察・ワークシート></p>
<p>小単元2 荒川の環境を未来に引き継ぐ担い手として取り組める活動を考えて実行しよう。 (15時間)</p>	<p>(本時) ⑤ゴミが放置されている荒川の環境を改善するためにできることは何か考える。</p> <p>●座標軸を用い、自分たちにできることを考え、グループで話し合い、ホワイトボードにまとめる。</p> <p>●継続的な環境保全を出し合い、活動ごとにグループ分けする。</p> <p>⑥荒川の環境をきれいに保つために、児童が考えた活動をグループごとに行う。</p> <p>⑦グループ活動の結果を整理・分析する。</p> <p>●これまでの活動をもとに成果や課題を出し合う。</p>	<p>◇思考ツールを用いて、自分たちが荒川の環境を保全するためにできる活動を考え、まとめさせる。</p> <p>□イー③ 荒川の環境を守る活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。 <観察・発言></p> <p>□アー② 荒川に生息する生き物や植物を守るために荒川のゴミ拾い等の環境保全活動に取り組んでいる。 <観察・ワークシート></p> <p>□ウー② 自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 <観察・ワークシート></p>

<p>小単元3 学校や地域とともに活動を行い、これからの自分たちの行動について考えよう。 (10時間)</p>	<p>⑧荒川を大切に思える人を一人でも増やすための活動を考えたり発信したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学年に伝える。 ・家の人に伝える。(公開授業等) ・自治体と協力して、地域の掲示板に掲示してクリーン運動を広める。など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような形で発信するかは児童の発言を基に決めていく。場合によってはそれぞれの発信方法で分かれることも可とする。 <p><input type="checkbox"/>アー③</p> <p>荒川環境と自分たちの生活には関連があることの理解は、川とそこに生息する生き物との関係を探的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p> <p><観察・ワークシート></p> <p><input type="checkbox"/>イー④</p> <p>川の環境保全に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。</p> <p><観察・ワークシート></p> <p><input type="checkbox"/>ウー③</p> <p>自分と川や地域の人々等とのつながりに気付き、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。</p> <p><観察・ワークシート></p>
---	---	---

7 本時（全35時間中の第20時間目）

(1) 本時の目標

自分たちのこれまでの情報や整理してまとめたことから、ごみを減らすために自分たちができることを検討している。

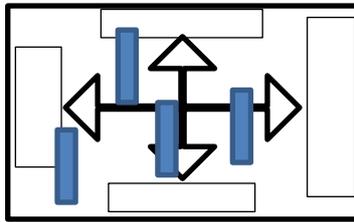
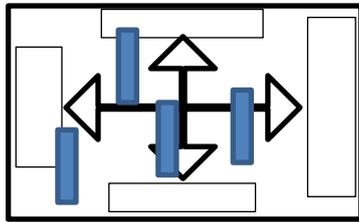
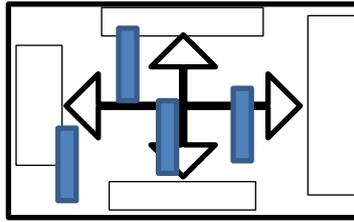
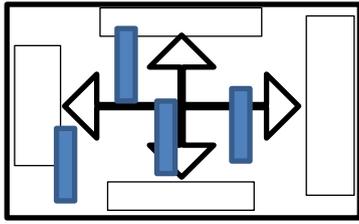
(2) 本時の展開

時間	●学習活動	◆支援 □評価規準 ・留意点
導入 (5分)	<p>●本時の流れを確認する。</p> <p>T:「前は、ゴミを減らすためにはどんなことをしたらいいのだろうと考えました。個人で考えたことを付箋に書いた後、隣の人と考えを共有しましたね。今回は何をしますか？」</p> <p>C:「前は、隣の人考えを聞くことができたので今回は同じグループの人の考えを聞いてみたいです。」</p>	<p>◆これまでの学習経過を提示し、項目立てをすることで意見を整理して話しやすくする。</p> <p>◆これまでの学習を想起しながら自分たちができる活動を考えさせる。</p>
<p>めあて 荒川のごみを減らすために自分たちができることを考えよう。</p>		
展開1 (10分)	<p>●グループ（班）ごとに4項目の座標図を使い、考えを共有する。</p> <p>4項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横軸（右）は多くの大人の手を借りなければできないこと。 ・横軸（左）は子供だけでできること ・縦軸（上）はすぐには達成が難しいこと ・縦軸（下）は直ぐに達成ができること <p>●座標の位置について、その場に貼るの でよいのか話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班に1枚模造紙を配布し、座標図に短冊を貼らせる。 ◆荒川の環境を保全するためにできる活動を考え、まとめるために座標図を使用する。 ◆事前学習で使用した座標図を掲示することで、使い方を想起させる。 ◆机間巡視をし、子供たちの様々な考えを価値づける。 ◆話し合い活動が円滑に行えるようなグループを構成する。
展開2 (20分)	<p>●各班、取り組みたい内容を発表する。</p> <p>C:「私たちの班が取り組みたいと考えた活動は『ごみ拾い』と『宣伝のためのポスター作り』です。」</p> <p>C:「私たちの班が取り組みたいと考えた活動は『家族に広めること』と『捨てている人に注意すること』です。」</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看板を立てる。 ・他学年に活動を広める。等 	

	<p>●今後取り組む活動内容を整理する。</p> <p>C:「ポスターを作ってもどこにはればよいのだろう。AMOA等の施設に貼るのは、子供だけでは難しいと思います。」</p> <p>T:「ごみ拾いをしようと考えている班が2つあるけれど、それぞれ貼っている場所が違います。なぜか説明できる人はいますか。」</p> <p>C:「ごみ拾いは荒川に行けばすぐにできる活動だと思うので、こどもだけでできることの近くにしました。」</p> <p>C:「子供だけで荒川に近づくことはできないので、大人の手がたくさん必要だと思います。」</p> <p>T:「ごみ拾いはどの位置に貼るのが良いと思いますか。」</p> <p>C:「大人の手は必要ですが、たくさん必要ではないのでこどもだけでできることの近くで良いと思います。」</p> <p>C:「直接荒川に行って、ポイ捨てしている人に注意することは子供だけでできそうです。」</p> <p>T:「今後取り組みたい活動を整理しましょう。今後どのような活動に取り組みますか。」</p> <p>C:「まずは、すぐに達成できる活動から始めて、徐々に達成が難しい活動にチャレンジしていきたいです。」</p> <p>C:「すぐに達成ができる『ごみ拾い』から活動を始めたいです。」</p>	<p>◆同じような考えでも座標図で表した位置が遠い場合などは、それぞれの班に理由を聞き、貼る位置や活動内容を整理する。</p> <p>□イー③</p> <p>荒川の環境を守る活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。</p> <p><行動観察・発言></p> <p>◆活動をより具体的にイメージさせるために改善点やそれに対する解決策についても話し合わせる。</p> <p>◆様々な視点で考えを検討できるように、「ちょっとまってカード」を用意する。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>●本時の振り返りをし、次時のやることを決める。</p>	<p>◆グループでそれぞれ次の時間に何をしたいのか明確にさせておく。</p>

(3) 板書計画

めあて 荒川のごみを減らすために自分たちができることを考える。



今日の学習の流れ

- 1・今日の活動内容を確認する。
- 2・座標図を使い、考えを整理する。
- 3・班ごとに今後取り組んでいきたい活動を考える。
- 4・班ごとに考えたことを発表する。
- 5・今日の振り返りをする。

(4) 授業観察の視点

学習活動の工夫

- ・座標図を活用することで、荒川周辺の環境問題について自分たちができる解決方法を具体的に考えていたか。

教師の働きかけの工夫

- ・教師の支援により、児童が主体的に行える活動になるように整理することができていたか。

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-009	荒川フィールド学習	北区立岩淵小学校

学習活動名：春の草花遊び <1年>

きせつとなかよし はる【生活】

日付：5月14日(火)

見られた子どもの姿：春の草花あそび

入学して初めての校外学習に、子供たちはとてもわくわくドキドキしていた。前を歩く2年生に遅れまいと一生懸命ついて歩く姿が見られた。日本生態系協会や水辺の会の方から、似ているけどよく見ると違っているオギとヨシの見分け方等について教えていただき、観察のポイントについて学んだ。カタバミの葉で十円玉をこすってピカピカにする活動を喜び、夢中になって取り組んでいた。



学習活動名：カニ採り <1年>

きせつとなかよし なつ【生活】

日付：6月4日(火)

見られた子どもの姿：カニ採り

2回目の荒川フィールドワークでは、カニ採りを行った。前回同様、日本生態系協会や水辺の会の方から、荒川でよく見られるカニの種類や棲んでいる場所、オスとメスの見分け方などを教えていただいた後、川原に下りて活動した。カニは石の下に隠れていることが多いと聞いて、何度も石をひっくり返してカニを探し、挟まれないように気を付けながらカニに触れようとする姿が見られた。最初は怖がっていた子供たちもだんだん慣れてきて、最後には捕まえられるようになっていた。



学習活動名：秋の草花遊び <1年>

きせつとなかよし あき【生活】

日付：10月24日(木)

見られた子どもの姿：秋の草花あそび、虫採り

荒川フィールドワークも3回目になり、虫に対する抵抗感をもつ子はほとんど見られなくなった。今回は、水辺で見られるクルミやヨウシュヤマゴボウ、オナモミなどの実を紹介していただき、それらを使った遊びも教えていただいた。また、広場では、バッタやコオロギ、トンボなど、秋に見られる虫を紹介していただいた。捕虫網の使い方を教えていただき、実際に一人一本ずつ網をお借りして虫取りも行い、捕獲した虫を観察した。



助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-009	荒川フィールド学習	北区立岩淵小学校



学習活動名：はっけん！水辺の広場 <2年>
草花あそび① めざせ生きものはかせ①【生活】

日付：5月14日

見られた子どもの姿：

日本生態系協会の方から春に見られる植物の話聞き、「水辺の広場」での草花さがしをした。

植物に巣を作る虫がいることを知り、歩きながら見つけていた。1年生の活動を思い出し、オオバコ相撲やシロツメクサの冠作りに取り組む姿も見られた。



学習活動名：はっけん！水辺の広場 <2年>
めざせ生きものはかせ②【生活】

日付：6月4日

見られた子どもの姿：

「水辺の広場」の岩場で、クロベンケイガニを探し、捕まえる活動をした。昨年の活動を思い出し、カニがいそうな場所を予想して取り組む姿が見られた。飼育の仕方を日本生態系協会の方から話を聞き、学校で触れ合う活動を通して、クロベンケイガニに興味をもち、大切に育てたいという思いをもつことができた。



学習活動名：はっけん！水辺の広場 <2年>
めざせ生きものはかせ③【生活】

日付：10月2日

見られた子どもの姿：

「水辺の広場」で、コオロギやバッタを探す活動をした。虫がいる場所や食べる物を日本生態系協会の方から聞き、実際に飼育することを通して、虫に興味をもつ児童が増えた。この活動後、休み時間に校庭で生きものを探す児童が増え、虫に触れなかった児童が進んで虫に触ることができるようになった。



学習活動名：はっけん！水辺の広場 <2年>
めざせ生きものはかせ④【生活】

日付：10月24日

見られた子どもの姿：

日本生態系協会の方から、秋に見られる植物の話聞き、「水辺の広場」で草花探しをした。春の草花あそびとの違いに気付き、秋ならではの植物を楽しんで探し、見つけた草花でリースを作ったり、帽子に飾ったりする姿が見られた。

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-009	荒川フィールド学習	北区立岩淵小学校



学習活動名：荒川フィールド学習〈3年〉

【総合的な学習の時間】

日付：5月15日(水)

見られた子どもの姿：

荒川の植生について学んだ。桑の葉の汁を使って絵を描いたり、お気に入りの草花を持ち帰って学校で押し花や押し葉にしたりした。また、水辺の会の方の水辺を守る努力についてもお話を聞き、壁新聞の形でまとめをした。



学習活動名：写生会〈3年〉【図画工作】

日付：5月21日(火)

見られた子どもの姿：

写生会では、荒川の川岸の木を描いた。幹の太さや葉が茂る様子を、大きな画用紙いっぱいクレパスや絵の具を使って描いた。汗を拭きながらも、木陰に時折吹く風ときらきら光る川面に、川辺の心地よさを感じている様子だった。



学習活動名：社会科見学〈3年〉【社会】

日付：6月14日(金)

見られた子どもの姿：

社会科見学では、特別に岩淵緊急船着き場から非常時用の水上バスに乗せてもらい、荒川と隅田川の沿岸の見学を行った。船上からは、社会科で学習した北区の土地の様子や街並みを確かめながら、発展的な学習を行うことができた。事後学習として、社会科新聞で学習のまとめを行い、身近な河川へ興味をもち、理解をより深めることができた。



学習活動名：こん虫のかんさつ〈3年〉【理科】

日付：6月25日（火）

見られた子どもの姿：

理科で昆虫のからだのつくりについて学習をした後、初夏の虫とりを行った。虫が好む場所やえさ、よく見られる時期などについて実際に虫とりをしながら学習した。「トラフカミキリ」というレッドデータに掲載されるような珍しい昆虫にも出会うことができ、環境を保全することの大切さについても考えることができた。パソコンを使って活動を振り返るポスターを作成した。



学習活動名：こん虫のかんさつ〈3年〉【理科】

日付：9月25日（水）

見られた子どもの姿：

秋の昆虫について学び、秋の虫とりを行った。その後、日本生態系協会の方から、「ハイイロゲンゴロウ」「コウイムシ」といった、荒川付近に生息する水生昆虫について「アモア知水資料館」で学習し、荒川流域には様々な生態系があることを知った。学校に戻り、理科「こん虫のかんさつ」の学習で見つかったり観察したりした昆虫についてまとめを行った。



学習活動名：荒川フィールド学習〈3年〉

【総合的な学習の時間】

日付：12月13日（金）

見られた子どもの姿：

アモア知水資料館にある、荒川を再現したミニ荒川（池）の掻い掘りを行い、掻い掘りをするのが池の水質を向上させたり、生態系を守ったりすることを学習した。ドジョウやヤゴ、メダカとともに、外来生物のカワリヌマエビが、実は在来種の餌になることも学び、学校に持ち帰ってヤゴと一緒に飼育することになった。教室に戻ってから、荒川についての思いや思い出を俳句にして読売KODOMO 俳句に投稿した。

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-009	荒川フィールド学習	北区立岩淵小学校



学習活動名：荒川クリーン大作戦Ⅰ＜４年＞

【総合的な学習の時間】

日付：４月２４日

見られた子どもの姿：

荒川の自然が大好きで、昆虫を見付けたり、満開の桜に感動したり、荒川を通る船の船上員に手を振ったりと親しむことができた。その中でも、荒川の水質の悪さやゴミが落ちていることに気付き、何かできることはないかという課題意識をもつことができた。



学習活動名：荒川クリーン大作戦Ⅰ＜４年＞

【総合的な学習の時間】

日付：５月２２日

見られた子どもの姿：

自然環境を守る活動をしている水辺の会の方々と一緒に、荒川のゴミ拾い活動をした。家庭用ゴミ袋４袋も回収することができた。しかし水辺の会が月に数回ゴミ拾い活動を行っているのにも関わらず残っているのに驚愕していた。このままでは、荒川の自然環境や水質環境に悪影響を及ぼすことを実感することができた。



学習活動名：社会科見学＜４年＞【社会科】

日付：６月１４日

見られた子どもの姿：

岩淵緊急船着き場から東京湾までの道りを水上バスに乗船しながら、荒川沿いの自然豊かな景色や隅田川を掃除する船などを見ることができた。ゴミが川に浮かんでいるところもあり拾うことができないもどかしさを感じ、改めて自分たちがどうにか荒川のゴミを減らさなくてはいけないという気持ちをもつことができた。



学習活動名：荒川クリーン大作戦Ⅰ＜４年＞

【総合的な学習の時間】

日付：６月２１日

見られた子どもの姿：

水辺の会の方々の活動に対する苦勞や願いなどを予想した上で、インタビューを行った。水辺の会の方々は、荒川の自然環境を保全するためならば、どんな活動でも楽しみながら行えるということを知り、子供達は、とても驚いていた。自分たちもきれいになる荒川を目指して楽しみながら活動していこうという気持ちになった。



学習活動名：荒川クリーン大作戦Ⅱ<4年>

【総合的な学習の時間】

日付：7月3日

見られた子どもの姿：

荒川の上流から下流にかけて様々な種類の魚類・甲殻類が生息している。その生態系を支える豊富な微生物が生息しているのかどうかプランクトンネットを使用して採取し、顕微鏡で調べた。

様々な種類の微生物が生息していることを知り、プランクトンに有害なゴミや生活排水を出さないことが大切なのだ実感することができた。



学習活動名：荒川クリーン大作戦Ⅲ 研究授業<4年>

【総合的な学習の時間】

日付：9月11日

見られた子どもの姿：

ゴミが放置されている荒川の環境を改善するためにできることは何か考えた。

ゴミ拾い活動やポスター・看板の掲示やSNSでの発信など様々な活動を考えることができた。また、実現可能かどうかとも子供達同士で話し合いながら思考ツール（座標軸）を使って、自分達のやりたい活動を吟味することができた。



学習活動：かい掘り体験<4年>

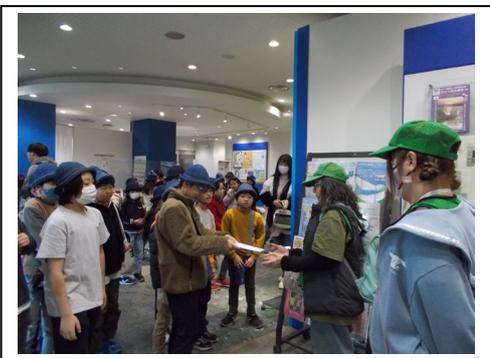
【総合的な学習の時間】

日付：10月16日

見られた子どもの姿：

荒川の大池に住む生き物たちの生態系を保つために、水を抜き、池の底を空気にさらして微生物による分解を促進することで、水質を浄化する活動を行った。

川の方に一生懸命水を掻き出し、水質環境改善に貢献する活動に参加することができた。



学習活動：荒川クリーン大作戦Ⅲ<4年>

【総合的な学習の時間】

日付：2月27日

見られた子どもの姿：

保護者と子供とともに水辺の会の方々のゴミ拾い活動に参加し、荒川を多くの人の手できれいにする活動を行うことができた。

子供達は、保護者と一緒に行うことでより楽しみながらゴミ拾いをする事ができ、たくさんのゴミを集めて達成感を味わうことができた。活動を通して、より多くの人にそして定期的にゴミ拾い活動をする荒川を好きになるひとが増えるだろうと荒川の未来を展望することができた。

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-009	荒川フィールド学習	北区立岩淵小学校



学習活動名：写生会〈5年〉【図画工作】

日付：5月21日

見られた子どもの姿：

写生会で荒川土手からの風景を描いた。長い時間、じっくりと土手からの風景を見た。時間の流れとともに「日当たりの様子が変わっている。土手からじっくり見たら、あんな建物があったんだ」などの児童からの発言も見られた。感覚を鋭敏にして、いつもとは違う気付きを得て、荒川の自然に目を向け、親しむことができた。



学習活動名：荒川プロジェクト〈5年〉【総合的な学習の時間】

日付：6月5日

見られた子どもの姿：

知水資料館に行き、荒川の歴史や水門の役割を知り、荒川の現状、過去の出来事、氾濫しないための工夫等を知ることができた。さらに排水ポンプ車の仕組みを聞いたり、照明車に試乗させてもらったり、災害対策室に行き、緊急対応時の動きについて学習することができた。

「緊急時にこんなにたくさんの人たちが動くことを知らなかった」という気持ちをもった児童もいて防災・減災のために様々なことが行われていることに気付くことができた。



学習活動名：荒川プロジェクト〈5年〉【総合的な学習の時間】

日付：9月18日

見られた子どもの姿：

知水資料館に行き、荒川の水門等を縮小したミニ模型で実際、氾濫したらどのような状況になるかなど実演してもらったりして、そのイメージをもつことができた。「氾濫を起こさないために、みんなに氾濫した時の恐ろしさ、氾濫しないようにするためにできることを伝えたい」という感想を持つ児童がいて、防災・減災について考えようとする意識を高めることができた。さらに、グループで追究していきたいテーマについて情報を集め、その知識を収集、分析することができた。

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-009	荒川フィールド学習	北区立岩淵小学校



学習活動名： 写生会 〈6年〉【図画工作】

日付：5月21日(火)

見られた子どもの姿：

- ・荒川の風景を視写し、思い思いの絵を描いていた。
- ・自然の中で自分の取り入れたい部分を選び、場所を確保して風景を絵に収めようと描く姿が見られ楽しそうにすごしていた。また、荒川の風景を見て「何度も見ているけど、季節で違って面白い」と感想を述べる姿が見られ、植物を観察したりして過ごしていた。

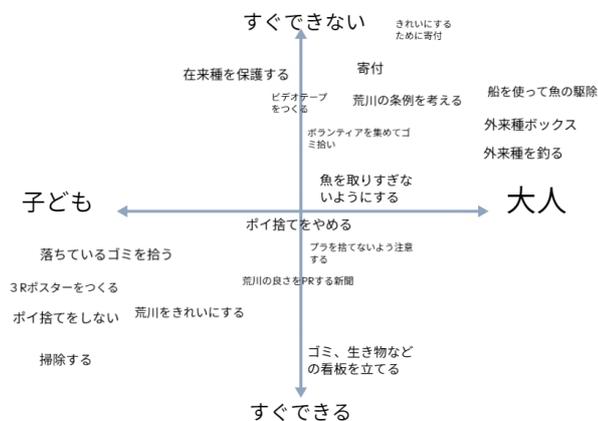
学習活動名： 荒川未来プロジェクト

〈6年〉【総合的な学習の時間】

日付：1月10日(金)

見られた子どもの姿：

- ・今までの学習を振り返り、自分たちに出来ることは何か考え、荒川の未来について再度出来ることはないか提案しプロジェクトを進める方法を模索していた。「もう一度、今まで体験したことを体験したい。」という考えが出て、水辺の会の方達と協力して河川の清掃を行った。体験後は、個人、グループ、全体で意見の交換が見られた。



助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-009	荒川フィールド学習	東京都北区立岩淵小学校

主な実施箇所

荒川水系 荒川

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は 1/50 万～1/100 万程度)

助成事業の主な実施箇所

